

社会、地理歴史、公民における 資質・能力の育成等について

議題 1

課題を追究・解決する活動の充実

議題 2

系統性・体系性等の整理について

議題 3

高校の高次の資質・能力の在り方について

議題 1

課題を追究・解決する活動の充実

課題を追究・解決する活動の充実①

1. 現状等

(1) 課題を追究・解決する活動

- 今次の学習指導要領改訂においては、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実などの見直しが図られた。具体的には、全ての学校段階を通じて、問題解決的、課題解決的な学習の過程（7ページ参照）の充実が図られており、**各教科等の目標**において、「**課題を追究したり解決したりする活動**」が明記されている。
- この活動では、**課題把握**（動機づけ、方向づけ）、**課題追究**（情報収集、考察・構想）、**課題解決**（まとめ）、**新たな課題発見**（振り返り）といった**学習過程**を、単元など内容や時間のまとまりの中で児童生徒が行うこととされている。しかしながら、中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度）では、「資料などから疑問を見つけたり問いを作ったりしている生徒」は60%前後（暫定値）にとどまっている。
- また、多様な立場の人々による様々な情報や資料等が溢れる現代社会において、その情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することは一層重要となっている。
- 更に、現行学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つとして「**問題発見・解決能力**」が位置づけられていたが、論点整理において、「『**学習の基盤となる資質・能力**』として示すのではなく、**各教科等の学習の過程で問題発見・解決が重視されることを示すべき**」といったことが示されている。

(2) デジタル学習基盤の活用に関する課題

- 論点整理では、「デジタル学習基盤を活用した授業改善は一定程度進んでいるが、地域間・学校間の格差が大きい。**学習指導要領の記述が不十分であることがGIGAスクール構想推進上の課題となっている**」ことや、「デジタル学習基盤を我が国の将来を担うデジタル人材の育成に繋げる取組は未発達」といった課題が示され、**デジタル学習基盤の活用が前提となっていないことが指摘**されている。

- また、中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度）においても、社会科の教師におけるICT端末の活用の場面が、「共通の資料を大きく提示する場面」や「インターネットで自由に調べる場面」が中心となっており、論点整理でも指摘されているように、**ICTの活用が教員の発想に留まっている**状況が見られる。
- このようなことを踏まえつつ、論点整理で示されているとおり、「今後、各教科等において、資質・能力の記載や各教科等固有の学習過程を示していくに当たって、**デジタル学習基盤が常に利用可能であることを念頭**」に検討することが必要である。

(3) 「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成に関する課題

- 児童生徒自身が、社会との関わり方を実感しつつ学習を進めることについては、未だ十分ではないという点や、社会参画意識を育成する観点などから、各学校種、各分野、各科目の学習が、有機的な関連を持って、効果的に寄与できているかという点からの検討が求められる。
- また、一人一人の自己決定権の尊重や社会参加の促進、「こども基本法」や成年年齢の18歳引き下げを踏まえた主権者に関する教育のさらなる充実が求められる。社会参加に関わっては、SNSの影響や生成AIの普及などが選択・判断に影響を与えることが指摘されている。このようなことから、**情報モラルやメディアリテラシーの重要性がより一層求められている**ことを踏まえる必要がある。

(4) AIなどデジタル技術の発展に関する課題

- ブラウザにAIが実装され、検索結果の最上部にAIによる要約が表示される中、その内容を単純にコピー＆ペーストしている児童生徒に対して、適切な指導がなされていない実態もみられる。**収集した情報の信頼性を確認する技能を一層高めるとともに、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経っていない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題**となっている。
- 収集した情報から思考・判断し、自らの考えを根拠を持って他者に表明するためには、生成AIなどの特性も踏まえながら、適切かつ有効な情報収集や情報活用などの技能の育成が求められる。

2. 改善の方向性

論点整理や総則・評価特別部会での議論も踏まえつつ、デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした社会科等における「主体的・対話的で深い学び」の充実のための考え方を以下のように整理することとしてはどうか。

(1) 基本的考え方

- 社会科等における「主体的・対話的で深い学び」をより一層**充実するため**には、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする「課題を追究したり解決したりする活動」を通じた学習を充実していくことが必要。
- この活動（課題把握→課題追究→課題解決→新たな課題発見）では、課題把握の段階において、社会的な視点や方法等を用いた児童生徒中心の課題の設定が重要。
- また、課題把握や課題追究、課題解決の段階においては、多様な立場からの様々な情報が溢れる現代社会の中で、自らの考察や意見形成、他者との議論などの根拠たりえる情報の吟味や活用の方法の獲得が喫緊の課題となっており、情報を収集し、読み取り、まとめる「社会的事象について調べまとめる技能」の見直しを行っていくことが必要。
- さらに、新たな課題発見の段階では、生徒が自分の学び方、調べ方を振り返って、新たな問い（課題）を見出したり追究したりすることが重要。
- なお、学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置付けられていた「問題発見・解決能力」が、論点整理において「各教科等の学習の過程で問題発見・解決が重視されることを示すべき」とされたことを踏まえ、社会科等における課題を追究したり解決したりする活動において発達段階も踏まえながら、社会の現状を分析・把握するなど、「問題発見・解決」を重視することとしてはどうか。

- 加えて、1人1台端末の整備が図られている中においては、デジタル学習基盤の活用を前提とした探究的な学びの充実が必要であり、「課題を追究したり解決したりする活動」を通じたデジタル学習基盤の活用をより一層進めるための取組も重要。

(2) 社会的事象について調べまとめる技能の見直し

【補足イメージ1：6ページ】

- これまでのWGでは、真偽が定かではない多様な情報が行き交う社会において、調査や諸資料から収集した情報の信ぴょう性を確認することを重視する観点から、発達段階も踏まえ、小・中学校においては、「確かな」情報に基づき、「適切かつ」効果的に調べまとめる技能を身に付けること、高等学校では、批判的に情報を扱う視点をより一層重視し、「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付けることとする方向で、目標について見直しを行う方向で議論が進められてきたところである。
- 一方、学習の基盤となる資質・能力の一つとして位置付けられている情報活用能力については、情報・技術WGにおいて議論が進められており、メディアリテラシーや情報モラルの扱い等について整理がなされたところ。
- これらも踏まえつつ、社会科等における「社会的事象等について調べまとめる技能」については、技術の進展に伴い情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することがこれまで以上に求められていることを踏まえ、収集した情報や読み取った情報、まとめた情報の信ぴょう性等を確認する新たな技能（「情報の妥当性の確認」に関する技能として位置付けた上で、現行の関連する内容を含め整理・充実することとしてはどうか。

(3) デジタル学習基盤を活用した学習の充実

- 社会科等におけるICT活用を、「課題を追究したり解決したりする活動」において、学習の質の高まりを促進するために必要な学習基盤として位置付け、以下の学習を踏まえた見直しをすることとしてはどうか。

- ①課題把握：社会的事象の把握に向けた統計資料等の検索・活用等
- ②課題追究：適切な根拠資料や原典資料等の収集・分析等グループ内での活発な議論のための資料の共有等
- ③課題解決：まとめレポートの作成や発表・共有等
(※17から18ページ参照)

- なお、児童生徒が主体的に学習を調整できる環境を整え、その実現を図っていく上でも、デジタル学習基盤は重要であることを認識し、適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

(4) 社会科におけるAI活用の考え方

- 論点整理において、小・中学校では「生成AI等の先端技術に関わる内容が明確に位置づけられていない」との指摘や「高等学校の数理データサイエンス・AI教育等との接続が十分でない」といった問題意識が情報活用能力の構成要素（①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）に即して、AIに関する具体的内容を体系的に整理する必要性が指摘されている。
- このことを踏まえ、情報・技術WGにおける議論の中で、総合的な学習の時間（情報の領域（仮称））や情報・技術科（仮称）、情報科において、AIそのものを学ぶ内容を学校段階ごとに整理されたところである。（※28から31ページ参照）

- 一方、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日Ver.2.0）では、基本的な考え方として「（1）学校現場における人間中心の生成AIの利活用」が示されており、この中では「生成AIの出力はあくまでも「参考の一つである」「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、生成AIの出力結果を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要である」といったことや「教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用すべき」であるといったことが明記されている。

- このような状況を踏まえつつ、社会科におけるAI活用においては、最終的には生徒が自ら考え、判断し、成果物の内容を自らの言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、今回整理した「社会的事象等について調べまとめる技能」の「情報の妥当性確認」に関する技能で示した視点も活用しながら、各学校段階や科目・分野において、必要な資質・能力を身に付けることができるかどうかという視点で、課題を追究・解決する学習活動を展開すること、それらの評価方法の改善を図ることを当面の基本的考え方としてとしてはどうか。

※「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」の改訂や、さらなる技術の進展など情報技術の変動性や陳腐化の可能性を踏まえた対応を行っていく必要があることにも留意。

○調べまとめる技能

情報を収集する技能

手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能

【1】諸資料の種類と情報を収集する

- 資料の種類と情報
 - ・地図等から位置関係や形状、記載内容などの情報を収集する
 - ・年表から出来事や時期などの情報を収集する
 - ・統計から傾向や変化などの情報を収集する
 - ・新聞、図書、画像や現物資料などから情報を収集する
- その他
 - ・体験活動を通した仕事などに関する情報を収集する
 - ・博物館等の施設、学校図書館やICT端末等を活用した映像や読み物などの情報を収集する
 - ・ICT端末や情報通信ネットワークなどを活用した情報を収集する

【2】調査活動を通した情報を収集する

- 社会調査活動
 - ・地域住民等を対象にした聞き取り調査やアンケート調査による情報を収集する
- 野外調査活動
 - ・現地の様子や実物を観察し、情報を収集する
 - ・写真撮影等で観察し、情報を収集する
 - ・地図と現地との対応関係を観察し、情報を収集する

●情報手段の特性や情報の確かさに留意した情報を収集する

- ・資料の表題、出典、年代、作者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を収集する
- ・情報手段の特性に留意して情報を収集する
- ・情報発信者の意図などに留意し情報を収集する
- ・情報の有効性（データの新旧など）に留意し情報を収集する

情報を読み取る技能

収集した情報を社会的な視点や方法等に沿って読み取る技能

【1】情報全体の傾向や趣旨を読み取る

- ・位置や分布など全体的傾向を読み取る
- ・量や変化など全体的傾向を読み取る
- ・博物館等の展示物から展示テーマの趣旨を読み取る

【2】必要な情報を読み取る

- 事実を正確に読み取る
 - ・形状、種類、大きさ、名称などの情報を読み取る
 - ・方位、記号などを読み取る（地図）
 - ・年号や時期、前後関係などを読み取る（年表）
- 有用な情報を読み取る
 - ・学習上の課題解決に向けた情報を読み取る
 - ・目的に応じた情報を選別して読み取る
- 信頼できる情報を確認して読み取る

【3】複数情報を見比べ、結び付ける

- ・異なる情報を見比べ（異なる地域の様子など）て、結び付ける（土地利用の様子など）
- ・同一事象に関する異種資料（グラフなど）の情報を見比べて、結び付ける
- ・同種の資料における異なる表現（複数の地図、複数の新聞や複数の原典資料など）を見比べて結び付ける

●資料の特性に留意して適切かつ効果的に情報を読み取る

- ・歴史資料の作成目的、時期、方法や作成者を踏まえて読み取る
- ・地図や年表などの主題や示された情報の種類や類型を踏まえて読み取る
- ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る
- ・資料の価値や限界を読み取る

情報をまとめる技能

読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能

【1】活用できる基礎資料としてまとめる

- ・聞き取ってメモにまとめる
- ・情報を地図やグラフなどにまとめる（数値情報をグラフなどに転換など）

【2】分類・整理してまとめる

- ・項目やカテゴリーごとに整理しまとめる
- ・順序や因果関係など整理し年表にまとめる
- ・位置や方位など整理し白地図にまとめる
- ・相互関係を整理し図（フローチャートなど）にまとめる
- ・ICT端末等でデジタル化した情報を統合・編集してまとめる

【3】情報の受け手に向けて、分かりやすさに留意してまとめる

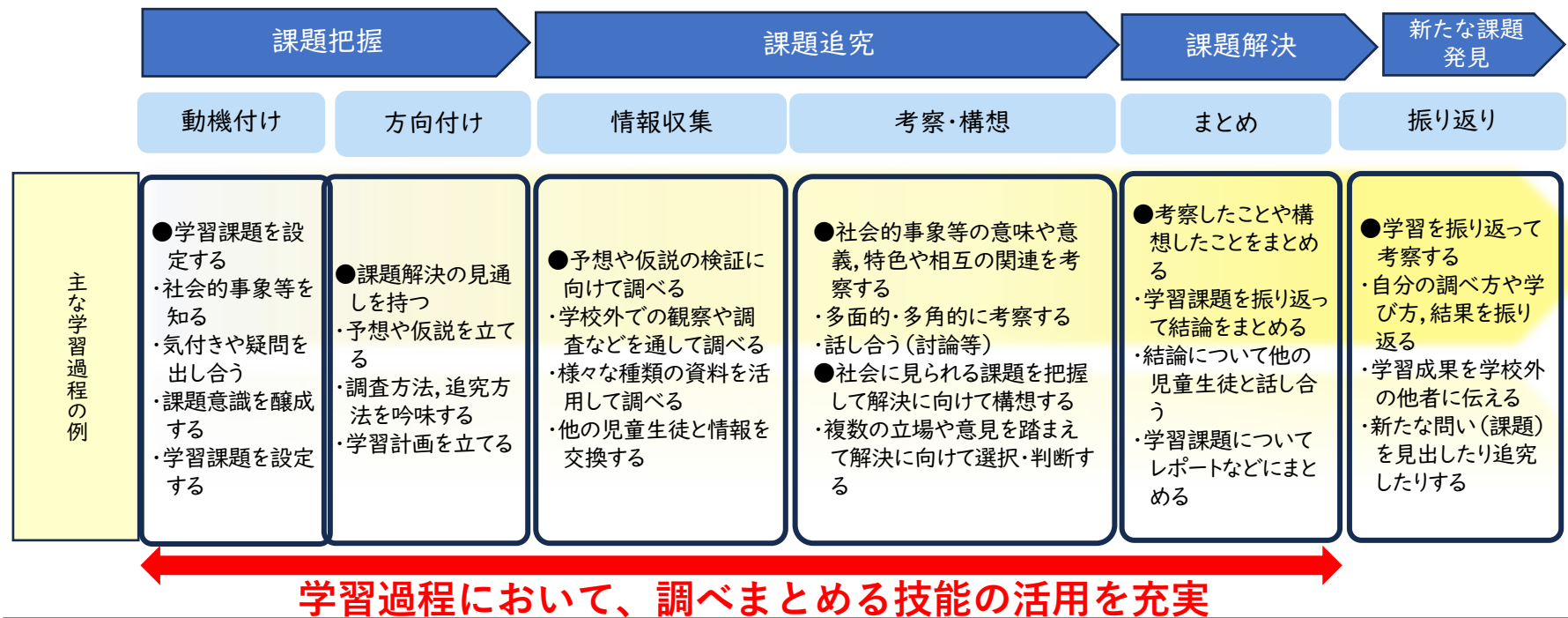
- ・効果的な形式でまとめる
- ・主題に沿ってまとめる
- ・レイアウトを工夫しまとめる
- ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

●自らの発信情報が妥当であるか吟味しまとめる

- ・まとめたことの根拠を他者とも共有（活用した資料などの典拠などを明記するなど）する
- ・まとめに含まれる他者の考えや資料などの引用部分を明示する
- ・まとめた結果に妥当な論理性があるかを確認する
- ・まとめたものを発信する際の影響を想定し吟味する

○情報の妥当性の確認

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ



<中学校社会「解説」2-1 教科の目標 p.24>

課題を追跡したり解決したりする活動については、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指している。こうした学習は、従前から「適切な課題を設けて行う学習」として、その充実が求められており、「課題を追跡したり解決したりする活動」はそれと趣旨を同じくするものである。そこでは、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追跡し、追跡結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追跡したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからである。そのため「課題を追跡したり解決したりする活動を通して」という文言が目標に位置付けられている。（中学校社会「解説」p.24 2-1 教科の目標）



【これまでの流れ】

1. 現行学習指導要領の記載（小、中、高、特の総則等）

- 5人に1台程度のICT端末の整備状況（平成30年当時）を前提に以下を記載した

総則 ・ 情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実
・ 指導方法・体制の工夫改善による個に応じた指導の充実を図る際の、情報手段の活用

各教科等 ・ 内容の取扱いにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークの積極的な活用

2. GIGAスクール構想、個別最適な学びと協働的な学びの提起

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワーク等の一体的な整備が進み、令和3年度からは、本格的な利活用が開始された
- 新型コロナ拡大やICTの整備状況等を踏まえ、令和3年1月に中教審答申「令和の日本型学校教育を目指して」が示された。（学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠としつつ、全ての子どもたちの可能性を引き出す観点から、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を提起）
- 令和5年11月にはGIGAスクール構想第2期の端末更新費用の措置が決まり、令和6年12月の諮問においても、デジタル学習基盤の活用を前提とした、次期学習指導要領の検討を求めた

3. デジタル学習基盤の果たす役割の整理（令和6年11月 中教審デジタル学習基盤特別委員会）

- デジタル学習基盤を定義（＝1人1台端末やクラウド環境等の情報機器・ネットワーク・ソフトウェアなどの要素で構成される一連の学習基盤）した

①児童生徒の端末、②通信ネットワーク、③周辺機器、④デジタル教科書・デジタル教材・学習支援ソフトウェア、⑤CBTシステム（MEXCBT）⑥教育データ利活用、⑦情報セキュリティ

- デジタル学習基盤の果たす役割を整理した

①多様で大量の情報を扱ったり、時間や空間を問わずに情報をやり取りしたり、思考の過程や結果を共有したりするなど、子供の学習活動や教師の授業・校務における情報活用の格段の充実を通じて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が可能となる
②多様な子どもたちにとって包摂的で、主体的・対話的で深い学びの一層の充実に資する学習環境を教師にとっても持続可能な形で実現するもの

【課題】

1. デジタル学習基盤が前提となっていない

- デジタル学習基盤を活用した授業改善は一定程度進んでいるが、地域間・学校間の格差が大きい。学習指導要領の記述が不十分であることがGIGAスクール構想推進上の課題となっているとの指摘がある
- デジタル学習基盤を我が国の将来を担うデジタル人材の育成に繋げる取組は未発達といえる

2. ICTの活用が教具的発想に留まっている

- 現在も「個に応じた指導」における情報手段の活用が示されているが、教師による指導体制・指導方法の工夫の観点のみとなっている
- デジタル学習基盤の活用により、子供自身が主体的に学習を調整できる環境が整ってきており、全国学調でもICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に一定の関係が見られるが、学習者の学習ツールとしての発想に立った記載が学習指導要領にないことが、授業改善の推進に当たって課題になっているとの指摘もある

3. 個別最適な学びと協働的な学びとの関係整理

- 「個別最適な学びと協働的な学び」という学習形態のみが強調され、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていない例があるとの指摘がある。また、「対話的」と「協働的」に二部重複感がある

以上を踏まえると

- デジタル学習基盤を活用を前提とした学びの方向性について、関係概念を分かりやすく整理しつつ学習指導要領で示していく必要がある
- 情報技術の急速な進展や、デジタル人材育成の必要性を踏まえ、各教科等で情報活用能力を抜本的に向上させる必要がある（⇒第四章で記載）



1. デジタル学習基盤を前提にした改訂の方針

- 中教審のデジタル学習基盤特別委員会の整理を基に、総則で以下のようなデジタル学習基盤の意義を示すべき
 - ✓ 多様な子供たちにとっての包摂性を高めながら、教師にとって持続可能な形で主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境デザインを実現できる
 - ✓ 教師の指導のツールとしての側面に加え、学習者の学習ツールとしての側面を有しており、子供にとっての学びやすさの向上や合理的配慮の基盤として働き、多様な特性を持つ子供たちが主体的に学ぶための基礎となる
 - ✓ デジタルかリアルか等の二項対立に陥らず、デジタルも最大限活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要である
- 例えば生成 AI の更なる発展など、デジタル学習基盤自体は今後も変化していくことが想定される。こうした情報技術の進展に伴う取扱いは、必要に応じ別途ガイドラインや指導資料として示すことを学習指導要領や解説等に予め記載すべき
- 今後、各教科等において、資質・能力の記載や各教科等固有の学習過程を示していくに当たって、デジタル学習基盤が常に利用可能であることを念頭に検討すべき

2. 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」の整理

- 「対話的な学び」と「協働的な学び」、「個に応じた」と「個別最適」など、類似した用語が並立することによる混乱が生じないように適切に整理すべき
- 特に個別最適な学びについては、多様な子供たち一人一人に、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力の育成を図る旨を明確化しつつ、既に総則に記載がある「個に応じた指導」を発展的に置き換える形で整理すべき
- その際、左記のデジタル学習基盤の役割も踏まえつつ、教師主語の視点（※1）のみに留まらず、学習者主語の視点（※2）も含めた2つの視点をバランスよく踏まえた記載とすべき
（※1）教師が子供たち一人一人に応じて指導方法・指導体制を工夫していくという視点
（※2）子供自らが自己の学習を主体的に調整することを促すことにより、資質・能力の育成に資するとともに、一人一人の多様性に応じていくという視点
- 孤立的な学びに陥ったり、集団の中で個が埋没してしまうことのいずれも避けながら、全ての子供の資質・能力の育成につながるよう、一斉・グループ・個別といった様々な形態を効果的に組み合わせて教育活動を組み立てていくことの重要性、対話的な学び・協働的な学びの前提としての集団作りや心理的安全性の確保の重要性なども示すべき

自らの人生を舵取りする力と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成（今後の検討イメージ）

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
（興味・関心）



当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼

課題設定
の充実

グループ探究
個人探究

総合

生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる
教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実

探究的な要素を持つ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決めら
れるような段階的指導
（家庭学習はじめる学習習慣の確立を含む）

各教科等

児童生徒主体のルール
形成や学校生活改善、
行事の創造等の明確化
（みんなが学びやすいルールや環
境の構築を含む）

納得解を形成しようとす
ることの重要性の明文化
（安易な多数決の回避や少数意
見の吟味）

特別活動

考え、議論する
道徳の徹底
（主体的な判断の
重要性、知・徳・体
の調和のとれた発達
に向けた、道徳的
価値の対立を乗り越
える必要性や道徳
実践の強調）

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない
視点としての個別最適な学びと協
働的な学びの一体的充実

科学的知見も生かした
効果的な指導計画・授業方法
児童生徒の学習方略の指導

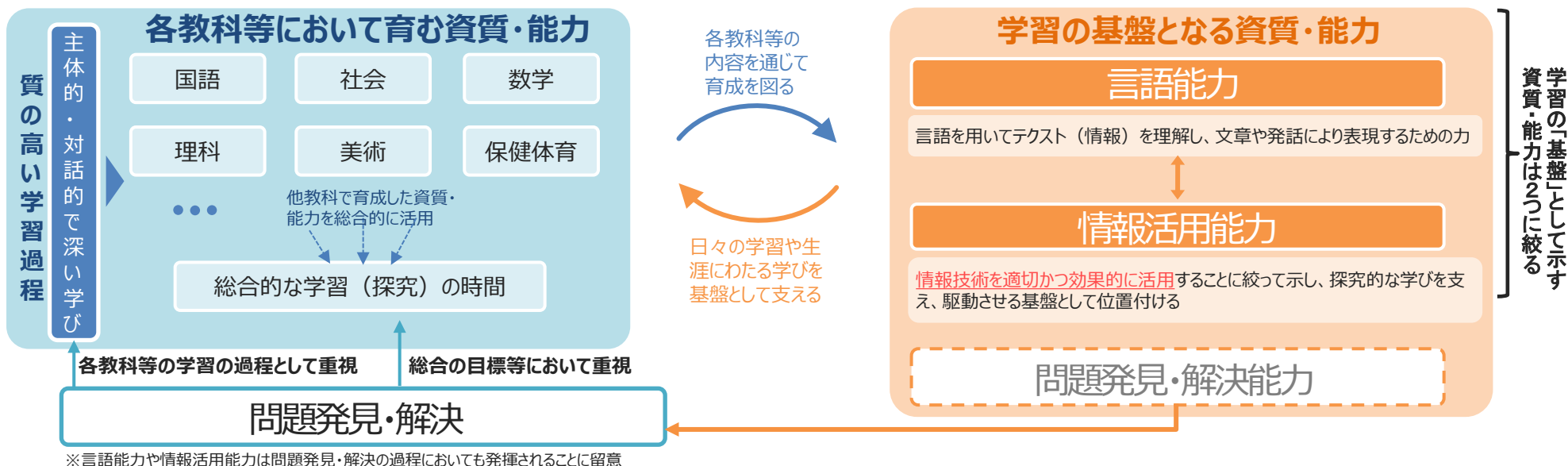
障害や認知特性等
多様な実態を踏まえた調整
（教科等、家庭学習含む）

全ての活動の基盤としての
心理的安全性の確保

学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

「学習の基盤となる資質・能力」の整理の方向性



＜問題発見・解決能力＞

- ① 児童生徒が取り組む課題に伴って能力の具体が変わるものであり、全ての学習の「基盤」として発揮可能な資質・能力をあらかじめ明確化することは困難
 - ② また、こうした力は、本人にとって意義のある文脈で質の高い問題発見・解決を繰り返す中で発揮できるようになるものであり、そうした文脈から切り離して育成することは難しいとの指摘もある
 - ③ 一方、各教科等で培った資質・能力を総動員し、個々の関心等に応じて様々な問題を発見し解決していく力を育む重要性は増している
今般検討している探究的な学びの充実は、「問題発見・解決」の要素と不可分一体（論点資料「3. 検討の方向性」）
- ➡ 「学習の基盤となる資質・能力」として示すのではなく、総合の目標の学校段階に応じた示し方を検討する中で、問題発見・解決の要素を重視するとともに、各教科等の学習の過程で問題発見・解決が重視されることを示すべき

➡ これらのことを前提としつつ、学習の基盤となる資質・能力の全体について、今後総則・評価特別部会等において詳細に整理すべき

＜情報活用能力＞

- ① 現在「情報及び情報技術を活用」する力となっているが、言語能力との重複があるとの指摘
 - ② 現代社会で情報技術を介さない情報活用に係る能力の育成は実践イメージが持ちにくい
- ➡ 今般の情報教育の充実を契機に、学習の基盤となる資質・能力としては「情報技術の活用」に絞って示すべき（「情報の活用」は各教科等の特質に応じて指導）
- ➡ 各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤として位置付けるべき

＜言語能力＞

全ての学習を支える基盤として重要な役割を果たしている

➡ 現行の整理を前提としつつ、見直しが必要な部分がないか検討すべき

「学習の基盤となる資質・能力」の相互の関係等について

令和7年12月15日総則・評価特別部会 資料2より

各教科等において育む資質・能力

元となる学問体系等を踏まえて系統的に内容が組織・配列されていることで、学習内容の体系的な習得を図るとともに、学習内容を相互に結びつけて理解しやすくなるなど、資質・能力の深まりを効果的に実現する。



各教科等の
内容を通じ
て育成を図
る



日々の学習や
生涯にわたる
学びを基盤とし
て支える

学習の基盤となる資質・能力

個々の教科等に収まらず、日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力は、各教科等の内容を通じて育成を図ることとなる一方、育成する資質・能力の全体像を教科等を超えて整理することで、各学校でのカリキュラム・マネジメントを通じた教育課程全体での体系的な育成を担保する。

言語能力

言語による情報を理解してそれを基に思考し、文章や発話により表現するための力

→言語を介して「他者」を理解し、知識を得つつ「自分」の考えを形成・表現する根幹であり、人間ならではの思考やコミュニケーション等を生み出す基礎となるもの。思考・判断・表現の過程で、自らの諸感覚を通じた経験（身体性）に根差した言語による「外化」を行うことが、生成AI時代にこそ不可欠な「深い学び」の鍵を握る。

思考やコミュニケー
ション等の強化・拡張

相補的
に働く

思考やコミュニケー
ション等の基礎

情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく力

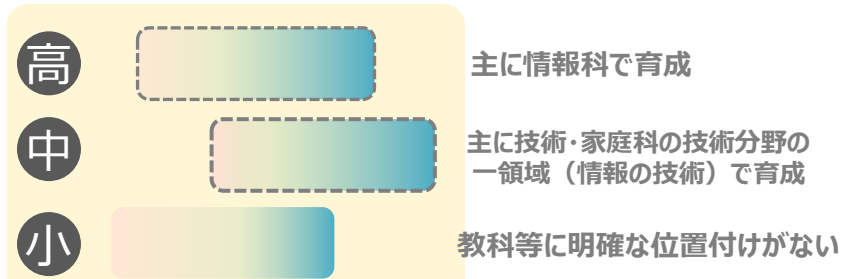
→情報技術を活用して、言語と言語以外の情報を効果的に組み合わせたり、情報を再構築したり、自らの身体では難しい創作などを行ったり、情報を地理的制約を超えて広く発信するなど、人間の思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張し、探究的な学びや課題解決に繋げていくもの。より質の高い、効率的な「外化」を可能とする。

情報活用能力の育成に係る各教科等の関係

情報活用能力の育成を担う核となる教科等

現行の学習指導要領

指導内容が不十分
 小中校通じた育成体系が不明確



デジタル学習基盤が前提となっていない

次の学習指導要領

情報活用能力を体系的に整理し、
 主として核となる教科等で育成する
 (※)ただし、一部教科では当該教科の資質・能力
 育成の観点から引き続き担うものもある



デジタル学習基盤が学習の前提

情報科の内容をさらに充実

情報・技術科（仮称）を創設

総合に情報の領域（仮称）を付加

情報活用能力を体系的に整理・構造化し、育成すべき資質・能力を明確に

核となる教科等以外の各教科等

現行の学習指導要領

各教科等の指導の中で、当該学習活動に必要な情報活用能力のみ取り扱う



例）小学校 社会 第5学年
 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめることを学ぶ際、コンピュータなどを適切に使って情報を集める技能も身に付けるようにすることが大切とされており（解説）、社会の授業でコンピュータなどを使った情報収集の方法を指導している

次の学習指導要領

情報活用能力は核となる教科等において育成されている前提で、各教科等を指導



左記の例の場合、コンピュータなどを使った情報収集に関する内容は、小学校総合の情報の領域（仮称）で学ぶこととなり、社会ではこれを学んでいる前提で、調べまとめる学習を行える

その他、小学校算数におけるプログラミング教育などもこれに該当

- 情報活用能力の学習の基盤としての位置付け、情報活用能力の範囲、情報技術の変動性に留意しつつ、情報活用能力の構成要素別に（情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）、各学校段階で育成すべき主な資質・能力の例を以下のとおり「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に整理してはどうか

小学校

中学校

高等学校

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等

①

課題の設定
情報の収集
整理・分析
まとめ・表現
基本的な操作

・多様な情報収集の方法を身に付ける
・情報やデータを整理し傾向を把握する方法を身に付ける
・目的に応じた表現技能を身に付ける
・情報技術の適切な操作を身に付ける
・適切な方法で情報やデータを収集・整理し傾向を明らかにしたうえで、目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる

・効率的な情報収集の方法を身に付ける
・情報やデータの統計的な分析の方法を身に付ける
・複数の情報技術を組み合わせた表現技能を身に付ける
・複数の手段により効果的に収集した情報やデータを統計的に分析し根拠を判断したうえで、適切な情報の加工をもって課題を解決できる

・組み合わせによる効果的な情報収集の方法を身に付ける
・情報やデータを構造化し科学的に分析し論理的に考察する方法を身に付ける
・情報技術を統合した効果的な表現技能を身に付ける
・情報技術の特性や信頼の多面性を踏まえ、情報やデータを統計・多角的に分析し根拠を判断したうえで、解決策を論理的に構成・適切に表現し、効果的な議論を経て課題を解決できる

②

法や制度
倫理
安全

・自他の権利やルール、マナー、セキュリティを理解する
・生活や健康への影響、安全管理を理解する
・メディアにより情報や印象が異なること、誤情報・悪意のある情報もあることを理解する
・権利と責任、ルールとマナー、セキュリティ、情報技術の活用による影響等を踏まえて適切に行動することができる

・権利に係る基本的な法制度や責任を理解する
・倫理的配慮や情報セキュリティの基本を理解する
・心身を含むリスク評価と適切な対処を理解する
・法や倫理等を多面的に考え、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスクを評価して適切に行動することができる

・法・制度の意義や責任を理解する
・倫理的な配慮を踏まえた適切な活用に関し理解する
・情報セキュリティを踏まえたリスクと利便性の評価・管理を理解する
・法・制度の意義や倫理的課題を考察し責任をもつことや、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスク、利便性、信頼性等を評価して適切に行動することができる

③

情報及びコンピュータの原理
AI
アルゴリズム・プログラミング
デザイン
データの扱い
コミュニケーションやメディア
社会的役割

・生成AIを含む情報技術の基本的な仕組みや特性を理解する
・コンピュータに指示するために必要な手順を理解する
・情報技術の特性を踏まえ、プログラミング的思考に基づき、身近な課題の解決策を表現することができる

・情報技術の仕組みを理解する
・AIの仕組みと社会での活用を理解する
・アルゴリズムの理解と構造的な表現方法を身に付ける
・ユーザ視点の情報デザインを理解する
・データの効率的な管理・活用の仕方を身に付ける
・メディア特性が受信・発信に与える影響を理解する
・技術による社会のシステム化を理解する
・情報技術の仕組みや特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、メディアの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における課題を多面的に分析して解決策を構想・表現することができる

・情報技術の原理を科学的に理解する
・AIの特性と課題を踏まえた活用の方法を身に付ける
・アルゴリズムやシステム構築の設計と評価の方法を身に付ける
・ユーザ中心の情報設計・評価の方法を身に付ける
・データの科学的分析・解釈や、モデル化、シミュレーションを理解する
・メディア・ツールの統合・活用の方法を身に付ける
・技術発展の影響を多面的に理解する
・先端技術を含む情報技術の原理や特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、モデリング、シミュレーション、メディア・ツールの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における専門的な課題を分析し、確に捉えて、解決策を創造的に構想・表現することができる

教育課程における「メディアリテラシー」の位置づけ

第6回情報・技術WG資料

- 生成AIによるハルシネーションや、人間の認知特性を踏まえたアルゴリズムによる情報の取捨選択や提示の最適化が進む中、真偽不明なものも含めて情報があふれるデジタル社会においては、真に必要な情報を吟味し、適切に取り扱う力の重要性が高まっており教育課程においてもその整理が必要
- そこで、教育課程においては、「メディアリテラシー」を情報メディアの特性が受け手に及ぼす影響を踏まえ、情報を社会的・文化的背景の中で吟味し批判的に評価したり、発信したりして、社会参画する考え方や態度であり情報活用能力の構成要素と捉え、各教科等の学習過程の中で育まれた「クリティカル・シンキング(※)」を、情報活用能力の育成の核となる教科等において統合的に働かせて育成するものとして位置づけてはどうか

※ 「クリティカル・シンキング」・・・論理的・合理的に考察し、内省的に思考を振り返りながら、より良い判断を志向する思考の様式であり、教科や学習場面と切り離して働くものではなく、各教科等の学習過程の中で具体的に働くものと考えられる

学習の基盤となる資質・能力

各教科等において育む資質・能力

情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり 自分の考えを形成したりしていく力 (総則・評価特別部会)

「メディアリテラシー」

※具体的な学習内容イメージは次ページ

メディアリテラシーとは、以下のことを可能にする思考力・実践的スキル、知識、態度を持つことである ※ 1

- ✓ 民主主義社会におけるメディアの役割と機能を理解すること
- ✓ それらの機能が果たされる条件を理解すること
- ✓ メディアコンテンツを批判的に評価すること
- ✓ 自己表現、異文化間対話、民主的参加のためにメディアと関わること
- ✓ ICTスキルを含むスキルを応用し、ユーザー生成コンテンツを制作すること

メディアリテラシーの一部

- ・ 情報を、多角的に分析（情報源の比較等）して考える
- ・ 情報の受発信、受け止めに、社会的・文化的背景がある（自分のバイアスもある）ことを理解する
- ・ 偽情報・白黒はつきりしない情報は「活用しない」「判断を留保する」ことも含まれる ※ 2

日々の学習や生涯にわたる学びを
基盤として支える

「メディアリテラシー」の文脈で、各教科等で育まれた「クリティカル・シンキング」を活用して、
デジタル社会の具体的な状況に適切に参画・対応できるようにする

核となる教科等

総合的な学習の時間
(情報の領域(仮称))

情報・技術科(仮称)

情報科

国語

社会

算数・数学

理科

直接的に
育成に資する
場合も

「クリティカル・シンキング（情報の吟味）」

クリティカル・シンキングは、アイデアや解決策を問い直し評価すること。帰納的推論と演繹的推論、分析、推論、評価を含む。 ※ 3

- クリティカル・シンキングとは「批判する」ことではなく、「吟味する」こと。
- 1) 論理的・合理的な思考
 - 2) 内省的、熟慮的な思考
 - 3) よりよい思考を行うための目標志向的思考

クリティカル・シンキングに基づく主な行動

- ・ 立ち止まって考える
- ・ 賛否両方の立場から考え評価する
- ・ 仮説を立てて検証する
- ・ 根拠に基づき、論理的に説明する
- ・ 目的、状況、相手の感情、文化、価値観等を考慮して実行する ※ 4

※ 「クリティカル・シンキング」について目標や見方・考え方等においてその旨を言及している教科等もある（別紙参照）

※ 1 (出典) UNESCO (2013). Media and information literacy: policy and strategy guidelinesを元に、資料作成者が和訳したものであり、原文の一部を省略している

※ 3 (出典) OECD(2023). THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS : OECD Learning Compass for Mathematics.を元に、文部科学省で仮訳したものであり、原文の一部を省略している

※ 2 第5回情報・技術WG 山協委員ヒアリング資料より抜粋し一部加工

※ 4 (出所) 「メディアリテラシー吟味思考を育む」(時事通信社、2022年)

「メディアリテラシー」に関する内容の考え方

- 「メディアリテラシー」に関する内容は、現行の情報モラルの考え方（情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度）と重複するものと、現行学習指導要領では明確に位置づけられていないものがあり不明確
- 「メディアリテラシー」に関する内容は、情報モラルとともに「②適切な取扱い」の一環として扱うことと整理し明確化してはどうか

2

情報技術の適切な取扱い

法や制度

情報技術に関わる法令・ルール、著作権等の権利、個人情報 他

倫理

情報社会におけるマナー、責任ある利用 他

安全

情報セキュリティ、危険回避、偽誤情報、メディアや情報との関わり、健康影響 他

情報モラル（現行）

「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」（学習指導要領解説）

＜解説で示されている内容例＞

- ルールやマナーを守り、自他の権利を尊重し 情報社会での行動に責任をもつ
- 情報機器の使用による健康との関わりを理解する

「メディアリテラシー」（一部）

＜解説で示されている内容例＞

- 情報には誤ったものや危険なものがあることを知る
- 情報を安全に利用する
- 情報発信による他人や社会への影響について考える

「メディアリテラシー」の重要な要素である、情報の吟味や批判的な評価、デジタル社会への参画といった要素が内容として不明確

「メディアリテラシー」に関して想定される学習内容イメージ（核となる教科等）

小学校

- 情報メディアを介して得る情報には、誤ったものや危険なものがあることから、すぐ鵜呑みせずに吟味したうえで判断する
- 情報メディアを介して得る情報は、送り手が情報の一部を切り貼りするなど再構成して発信していたり、受け手によって情報に対する印象が異なって伝わるといった認識の下、情報を受発信する 等

中学校

- 情報メディアを介して得る情報は、アルゴリズムによって受け手の嗜好に合わせた取捨選択が行われていたり、AIにより生成された偽・誤情報も含まれることから、メディアを比較しながら、情報の信頼性や信ぴょう性を吟味し批判的に考察する
- 情報メディアを介して得る情報には、人間の心理的傾向が働いたり、社会的・文化的な背景があるといった認識の下、情報を受発信する 等

高等学校

- 情報の発信などにおいて情報技術を活用する際には、他者の権利や社会的責任を考慮し、安全で公正な行動を考える（情報を吟味したうえで、あいまいな情報は不用意に用いない）
- 情報メディアの特性（フィルターバブルやエコーチェンバー等）を踏まえつつ得られた情報を根拠に、問題解決に向けて論理的に仮説・検証を繰り返す 等

※内容としての具体的な取扱い方や位置づけ方は、情報活用能力全体の体系性の整理と整合を図りながら、今後検討

スタディーエックス スタイル

StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

1. 各教科等における 深い学びの実践

各教科等
での活用

慣れる
つながる
活用

STEAM教育等の
教科等横断的な
学習

小学校



中学校



高等学校



特別支援教育



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

会見・報道・お知らせ

政策・審議会

白書・統計・出

トップ > 教育 > 小学校、中学校、高等学校 > 教育の情報化の推進 > 教員のICT活用指導力の向上 > 社会科、地理歴史科、公民科

社会科、地理歴史科、公民科

小学校

○ 事例（令和7年6月30日更新）

[小学校第4学年 社会「見つめよう わたしたちの福島県」\(PDF:1.025KB\)](#)

[小学校第5学年 社会「米づくりのさかんな地域」\(PDF:1.392KB\)](#)

中学校

○ 事例（令和7年6月30日更新）

[中学校第1学年 社会\(地理的分野\)「オセアニア州」\(PDF:1.186KB\)](#)

[中学校第2学年 社会\(地理的分野\)「日本の諸地域 中部地方」\(PDF:1.372KB\)](#)

高等学校 地理歴史科

○ 事例（令和7年7月28日更新）

[高校第1学年地理総合「地図や地理情報システムと現代世界」\(PDF:1649KB\)](#)

[高等学校第1学年地理総合「生活圏の調査と地域の展望」\(PDF:1628KB\)](#)

[高等学校地理歴史科歴史総合「近代化と私たち」\(PDF:1350KB\)](#)

高等学校 公民科

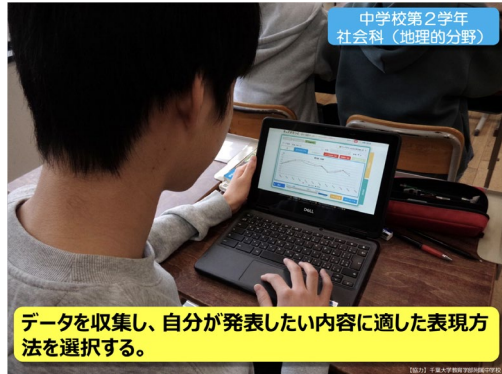
○ 事例（令和7年7月28日更新）

[高等学校2学年公共「主として法に関わる事項」\(PDF:1245KB\)](#)

[高等学校第2学年公共「模擬政党・政策・政見放送づくりプロジェクト」\(PDF:1352KB\)](#)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shoto_u/zyouhou/mext_00004.html#tyu

文部科学省webサイトでのICTの活用事例の紹介



②課題追究（考察）：
地図や作成したグラフから考察した内容をシートにまとめ、クラウド上で共有してグループ内で議論

②課題追究（情報収集）：
考察するために、web上の地理院地図から地形のデータを収集し、根拠資料作成

中学校 第2学年 社会（地理的分野）
「日本の諸地域 中部地方」の事例（抜粋）

https://www.mext.go.jp/StuDXStyle/20250620-mxt_kyoiku01-000015438_4.pdf

①課題の把握：
web上の統計資料等から情報を収集し、生徒の疑問から問い（なぜ地場産業が盛んか等）を立て、見通しをもつ

②課題追究（情報収集）：
web上の総務省のデータから降雪日数の情報を収集し、考察するためにグラフ化

中学校第2学年 社会科（地理的分野） 「日本の諸地域 中部地方」

■単元の目標

「中部地方では、なぜ各地に個性豊かな産業が発達しているのか」という問いに対して、地域の広がりや人々の対応などに着目して、自然環境や交通網、歴史的背景などと有機的に関連付けて資料を収集し、多面的・多角的に考察し、表現する。

■単元の概要

北陸・中央高地・東海の各地域は自然環境が異なり、大消費地との位置関係等を生かした産業が発達していることを、収集した資料を基にプレゼンテーションにまとめ、表現する活動を行う。

■単元の指導計画（4時間）

第1小単元

「中部地方をながめて」
・日本アルプスに着目して、中部地方の気候や人口、産業、交通網の概要を捉える
・単元の学習課題を確認し、知っていることや自分の予想を整理して学習の見通しをもつ

第2小単元

「中部地方で盛んな産業」
・グループごとに調査対象を決める
・グループ内で協働して調査し、調査結果をスライドにまとめる
・スライドに基づいてプレゼンテーションし、質疑応答を行う

第3小単元

「中部地方の特色をまとめよう」
・単元を振り返って中部地方の各地域に個性豊かな産業が発達していることについて、文章でまとめる

■小単元の概要

地形に関する地図や人口に関するグラフを基に、中部地方の地形の大きな特色として日本アルプスがあることに気付く、それにより気候が大きく三つに区分されることや人口が偏在していること、各地に個性豊かな産業が発達していることを知る。

北陸・中央高地・東海の第一次産業、第二次産業、第三次産業で九つのテーマを設定し、グループごとに分担して調査活動を行う。グループ内で協働して具体的な統計データを収集し、対象地域はどのような地域なのか、何の産業がどの程度盛んなのか、また、なぜその産業が盛んなのかを説明するためのスライドを作成する。他のグループに発表し、質疑応答を通して理解を深める。

各グループの考察で、産業が盛んな理由がどのような視点から説明されていたか整理する。発表内容を振り返り、中部地方の特色を文章でまとめる。

③課題解決：
考察した内容についてICT端末で発表用資料を作成し、その資料を使ってクラスで発表・共有

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2小単元）

【学習活動の場面】

グループごとに担当する地域や産業が決まり、教科書や資料集を基に、発表内容について調べ、まとめた。対象地域で盛んな産業を説明する際に、どこで、何が、どの程度盛んであるか、またその理由を調べ、地図や具体的な統計データを示した。生徒Aは、対象地域の産業と地形との関わりについて担当し、地理院地図を活用して地形を示した地図を作成した。生徒Bは、対象地域で地場産業が発達した背景について担当し、自分で作成した統計データを示しながら説明した。

【子供の「深い学び」の姿】

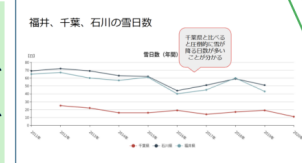
生徒Aは北陸地域が日本海に面した山がちな地形をしており、冬の季節風の影響で雪が多くなることを分かりやすく伝えるため地理院地図で地形の起伏を示した地図を作成した。

生徒Bは北陸地域の地場産業が発達した背景に、雪日数の多さを具体的に表現するため、総務省「キッズすたっと」から「雪日数」の統計を探し、石川県と福井県の雪日数をグラフで表示した。自身の居住地域と比較すると、北陸地域の雪日数の多さがよりわかりやすくなるのではないかと気付き、干葉集の雪日数もグラフに表示した。

これらの資料を基に、他のグループに対して発表を行った。発表スライドはクラウド上で参照することができ、必要に応じてスライドを見返しながら地域的特色について理解を深めた。

【当該指導での「深い学び」】

このグループは、北陸地域の地場産業が発達した要因を説明する際に、北陸地域の地形の特色や、北陸地域の雪日数を居住地域の統計データと比較することで説得力のある発表を行った。その結果、北陸地域における自然と地場産業との関わりについて理解を深めた。



■指導上の工夫とICTの利活用

①多様で大量の情報から適切な資料を収集・選択する。

*他の地方の学習において資料から地域的特色に迫る手法を一斉指導で身に付けた上で、本単元では1人1台端末を活用して幅広い情報源から資料を収集し、その技能を身に付ける。

②地図や統計のサイトで表示させるデータをカスタマイズし、発表に適した表現方法を選択させる。

*データのカスタマイズによって地域間の比較から対象地域の特色を明確に示し、考察をより確かなものにする。

③クラウド上で発表スライドを同時編集や相互参照する。

*時間的・空間的制約を超えて生徒の成果物を見られる状況を整え、教師が生徒の進捗を把握したり、生徒が理解を深めたりできるようにする。

Googleクラスルーム、Googleスライド、地理院地図Vector、キッズすたっと

1. 現行の学習指導要領の記載とこれまでの蓄積

- 現行学習指導要領では、これからの社会で求められる資質・能力の育成に向けて、学習過程の質的改善を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提起した。また、これまでと同様に、学習内容の確実な定着に向けた「個に応じた指導」の充実の必要性や、見通しを持ったり振り返ったりすることの重要性など、学習指導に当たって共通に取り組むべきことを総則に記載した。参考資料⑦
- その後、現行学習指導要領を順次実施していく中、多様な子供達が学校に在籍している実態の顕在化や、GIGAスクール構想によるデジタル学習基盤の整備等も踏まえ、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指す～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（以下「令和答申」という。）において、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の考え方を新たに示した。参考資料⑧
- 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の考え方は、子供一人一人に合わせて「主体的・対話的で深い学び」を実現していくにあたり、教師が個別の指導を行うだけでなく、子供達が主体的に学習を調整できる環境を整え、子供自身がその実現を図っていくことが重要であり、デジタル学習基盤はそのための重要な基盤であるとの認識に基づいている。
- 一方で、学習指導要領の実施と令和答申の周知が重なる中で、学校現場から「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の関係性が掴みにくい、具体の実践のイメージが湧きにくい等の声も出てきていた。こうした学校現場の悩みに応えるため、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のためのサポートマガジン『みるみる』」を令和7年4月に刊行し、一人一人の教師にとって分かりやすいよう、全体の考え方を整理しつつ具体的な実践事例を示してきた。参考資料⑨
- 他方、こうした現行学習指導要領施行後に行われた考え方の整理やこれまでの実践の蓄積から得られた知見は、学習指導要領総則に反映されていないことから、全ての学校で共通理解が図られているとはいいがたい現状もある。
- 以上のように、「主体的・対話的で深い学び」を、多様な特性等を有する子供達一人一人に個に応じて実現していくために、デジタル学習基盤の活用を含めて、どのような基本的な考え方に立って進めていくべきかについて、これまでの政策的・実践的・科学的蓄積を踏まえて分かりやすく整理して、総則に位置付けていく必要がある。

2. 次期学習指導要領に向けたこれまでの検討

- ① 次期学習指導要領に向けた中教審諮問は、「人生100年時代」の到来や労働市場の流動化等に伴いマルチステージの人生モデルへの転換が進む中、不確実な社会を生きる子供達が、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けていくことが不可欠であり、デジタル学習基盤を前提に、学びを自己調整できる指導計画・学習環境のデザインや、その際の教師の指導性の在り方等を検討していく必要性を示した。
- ② 論点整理は、多様な子供達一人一人が、教科等の概念を深く理解し身体化（記号接地）したり、創造的な考え方を生み出していくためには、自ら初発の思考や行動を起こし、他者との関わりやメタ認知により思考や行動を修正（自己調整）していくといった学びのプロセスが重要との視点に立ち、学びに向かう力・人間性等を再整理する方向性を示した。こうした学習の自己調整を促すための共通的な記載を検討する必要。
- ③ 論点整理は、デジタル学習基盤について、多様な子供たちにとっての包摂性を高めながら、主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境を整えるものであることなど、その役割を明確にする方向性を示したところであり、このことを踏まえた記載を検討する必要。

参考資料⑩

参考資料⑪

- 本部会では、総則の構成に係る議論において、児童生徒の学習の自己調整に係るものや、教師の個に応じた指導に係るものは、「**第3**」にまとめ、「児童（生徒）が主体的に学ぶことができる学習環境の構築」（仮称）等の項目を設けていく方向性で検討することとした。このため、1. で述べた現行指導要領下での蓄積に加えて、これまでの改訂の議論（上記①②③）を総合して、「第3」に示す新しい項目等において、どのように記載を設けていくか検討する必要。

参考資料⑫

3. 新たな項目における記載内容について

（項目の名称について）

- 本部会の第三回では、「主体的・対話的で深い学び」を、多様な特性等を有する子供達一人一人に個に応じて実現していくための留意事項に係る項目の名称について、「児童生徒が主体的に学ぶことができる学習環境の構築について（仮称）」としてはどうかとの案に基づき議論を行ったが、「主体的・対話的で深い学び」の一部分だけ切り取っているように見える、「学習環境」だけだと教師の指導が見えにくい」等の指摘もあったところ。
- こうしたことを踏まえ、項目の名称については、現行でも用いられている「個に応じた指導の充実」を発展させ、「個に応じた学習過程の充実」（仮称）としてはどうか。このような示し方により、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習過程は必ずしも一様ではないという趣旨が学校現場にも伝わりやすいのではないか。

（項目に記載する内容について）

- 個に応じた学習過程を充実させていくに当たっては、教師の指導・支援が重要となることから、その点に十分に留意して具体的な記載を検討してはどうか。
- また、第三回では、可能な限り総則の記述の精選を図り、理解しやすくスリムなものとしていく方向で議論されたことも踏まえ、総則本体では踏まえるべき基本的な趣旨や方針を端的に示すこととし、具体的な留意事項等は解説で記載することとしてはどうか。

※本資料はあくまで盛り込むべき要素の案を示したものであり、実際の総則及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

解説で記載する要素例（案）

総則に盛り込む要素（案）

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善) 中略

(個に応じた学習過程の充実)

○多様な特性等を有する児童生徒に主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、個に応じて学習過程の工夫を図る

○その際、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを持ち、よりよく学ぶことができるよう方略を工夫したり、振り返ったりしながら、自らに適した学習過程となるよう調整できる機会を計画的に取り入れるよう工夫する

○また、知識及び技能を生きて働くものとして確実に習得していくことも含め、児童生徒が個に応じて資質・能力を身に付けることができるよう、教師による学習環境の設定、指導方法、指導体制上の工夫改善を行うなど、個に応じた指導の充実を図る

(デジタル学習基盤等の効果的な活用)

○コンピュータや情報通信ネットワークなどで構成されるデジタル学習基盤は、多様な特性等を有する児童生徒に主体的・対話的で深い学びを実現する基礎となるものであり、これらを児童生徒が日々の学習や学校生活において活用するのに必要な環境を整えとともに、適切に活用した学習活動の充実を図る

情報機器の基本的操作やプログラミング活動について（小学校のみ）は、各教科等における充実に伴い、総則における扱いの整理が必要

○また、各種の図書資料・統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る

全体として、趣旨や方針を端的に示し、
具体的な留意事項等は可能な限り解説に記載する

・児童生徒の多様な特性や発達段階等の実態を踏まえて、全ての児童生徒に主体的・対話的で深い学びが実現できているかという視点を持つことの重要性
・そうした視点から個に応じた学習過程の工夫を行っていく上で、個別最適に学ぶ場面と協働的に学ぶ場面それぞれのよさを活かし、一斉・協働・個別といった学習場面を効果的に配置するなど、教師が必要な指導性を発揮しつつ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することの重要性
・その際、孤立した学びに陥ったり、集団の中で個が埋没することのいずれも避けるとともに、教師が必要な支援や指導を行わないといったことに繋がらないよう留意することの必要性
・「深い学び」を実現する上で、教師の一斉による指導も効果的に実施するとともに、児童生徒自身が自ら考え知識等を構成することができるようにしていくことの重要性

・1コマで学習を完結させるのではなく、単元・題材等のまとまりで学習過程を工夫することの重要性
・「学びに向かう力・人間性等」を4つの要素で整理したこととの関係
・児童生徒の学習過程において、見通しを持つ（学習前）・方略を工夫しながら学習を進める（学習中）・学習の成果を外化し振り返って次の学習に繋げる（学習後）といったプロセスを児童生徒が円滑に行うことができるような教師の指導や支援の重要性
・よりよく学習するための方略を、教師や他者の取組から学びながら自ら工夫し、徐々に高度化する視点
・こうした学校での学習を経て、家庭学習の内容を自律的に決定できるようにしていくことなど、家庭学習を含めて学習習慣を形成し、学びを広げ深めていく視点 等

・児童生徒の学習の調整を含めて、児童生徒理解に基づく教師による単元全体の構想の必要性
・児童生徒が学習に前向きな見通しを持つことができるよう、単元計画を児童生徒にあらかじめ分かりやすく共有することや、学習意欲を高める工夫等の重要性
・児童生徒が学習を工夫しながら進められるよう、子供の学習過程を見越した適切な課題や多様な学習活動の展開を可能とする学習教材の準備、つまづきを予想した足場かけ、相互に学び合いながら安心して学習ができる環境構築、効果的な学習に関する科学的な知見も踏まえた学習方略の指導・年間指導計画の作成等の重要性
・学習前に分かりやすい評価計画・評価規準を示すことや、学習中・学習後等に学習状況をメタ認知して振り返る機会を設けること等の重要性
・児童生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう、児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなどの工夫を行うことの重要性
・学習内容の習熟の程度に応じた学習等、現行の「個に応じた指導」で示している工夫例
・小学校の専科指導や交換授業、チーム・ティーチング等の指導体制の工夫例 等

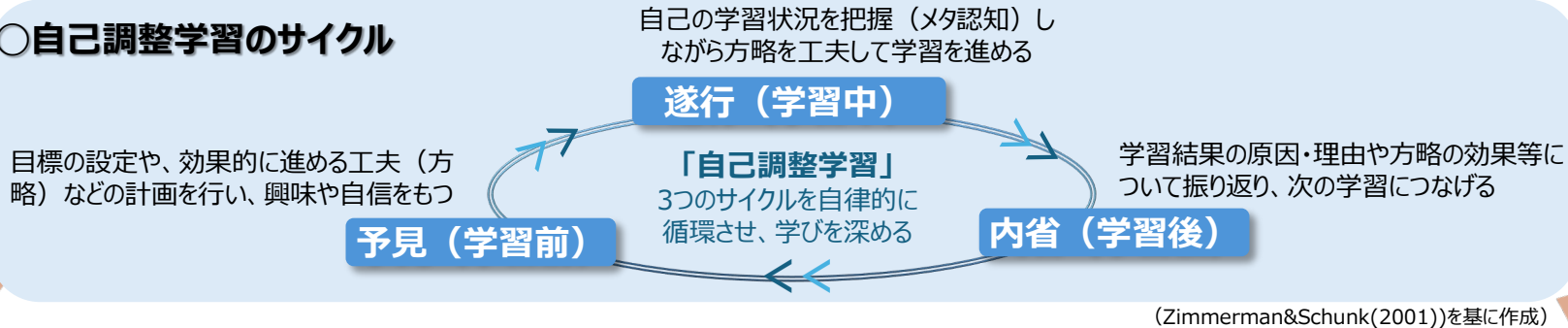
・デジタル学習基盤の役割

①多様な児童生徒にとっての包摂性を高めながら、教師に持続可能な形で主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境を実現できること
②教師の指導のツールとしての側面に加え、学習者の学習ツールとしての側面を有しており、児童生徒にとっての学びやすさの向上や合理的配慮の基盤として働くこと
③デジタルカリアル等との二項対立に陥らず、デジタルも最大限活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要であること
・デジタル学習基盤の環境整備における設置者の積極的役割 等

◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

○自己調整学習のサイクル

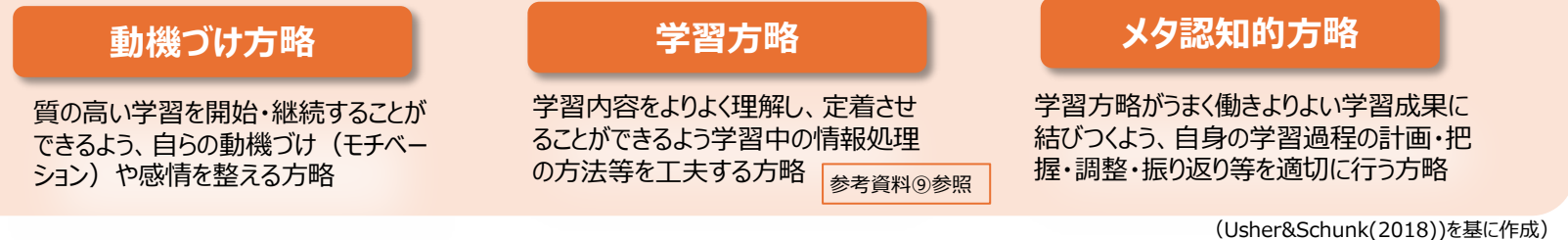
自己調整学習の効果を高め、学習成果に繋がりやすくする



○自己調整学習の効果を高める方略の例

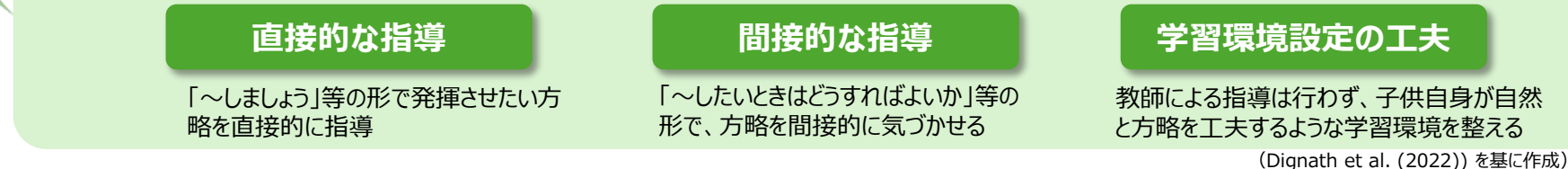
参考資料⑧参照

子供達の方略の工夫・発揮を支える



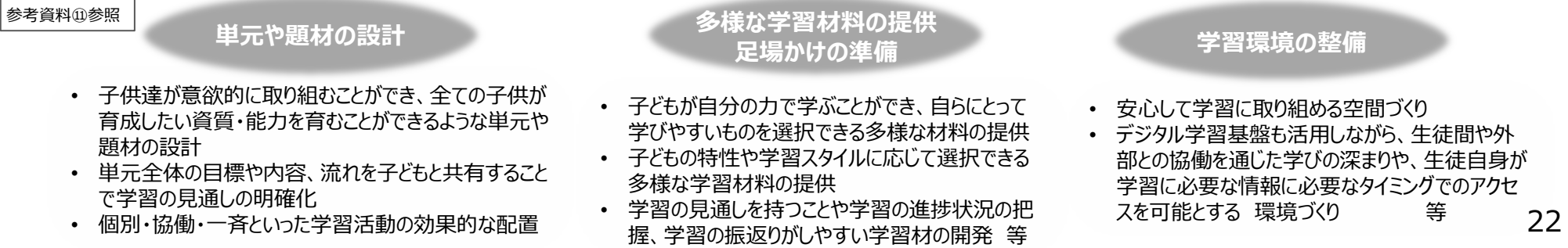
○方略の指導に関する類型

※研究では、教師による方略の直接的な教授の有効性が示されている



◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例 (単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に記載)

参考資料⑩参照



教師による自己調整学習の促進の例

(Dignath et al. (2022) "Assessing How Teachers Enhance Self-Regulated Learning Coding Guide"を基に作成)

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習課題の意義づけ・価値づけ

取り組む学習が、目標に照らして努力に見合う価値があると実感することで動機づけを高める

学習環境の調整

自身が学習に集中できるように学習環境を整える

他者との協働や支援の活用

友達に聞く、協働する、教師や保護者の支援を求めるなど、学習を進める上で必要な社会的リソースを整える

自己肯定感の維持

学習成果の要因を、変えられない又は外部的な要因（自らの能力等）に求めず、自分で変えられる又は内部的な要因（学習方略等）で捉え、自己肯定感を支える

意思や注意のコントロール

学習に関係のない思考を抑え、学習の目標を達成するための活動に注意を振り向ける

学習方略

参考資料⑨参照

学習内容をよりよく理解し、定着するよう学習途中の情報処理の方法等を工夫する方略

反復方略

学習した内容が長期記憶として定着するまで、繰り返し学習できるようにする

精緻化方略

理由や意味を付け加えるなど、新たな学習内容を、既存の知識と関連付けて深く理解できるように工夫する

組織化方略

同じ点に着目して情報を整理する、内容を要約するなど、新たな学習内容の中で関連付けを行い、体系的に理解できるように工夫する

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

計画方略

学習活動に先んじて、学習過程の計画、目標設定、学習方略の選択等を行う

モニタリング方略

学習過程において理解度等を自分に確認することで、学習の進捗を確認する

評価方略

実際の学習活動終了後、学習の進捗を当初の学習目標と照らし合わせる

調整方略

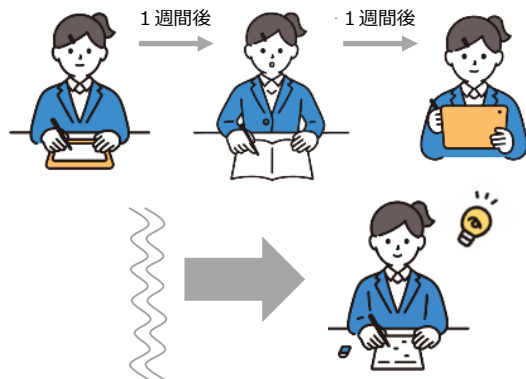
学習目標を達成したか確認したあと、進捗状況に応じて自身の学習方略等を調整する

自己調整学習を促進する教師の関わりの類型

- ①直接的な方略指導 : 教師が方略を意図的に指導することで、児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す
- ②間接的な方略指導 : 教師は特定の方略を明示しないが、問いかけ等を通じて児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す
- ③学習環境設定の工夫 : 児童生徒が自己調整学習を行う必要がある環境を設定し、児童生徒が自然と方略を工夫していくことを促す

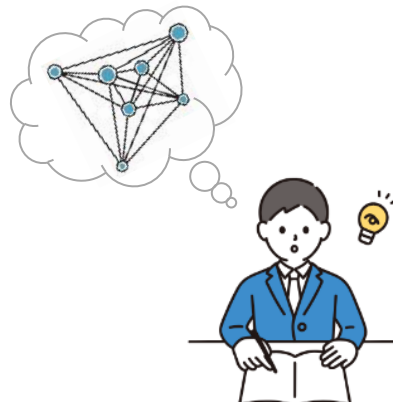
分散学習

時間の間隔を空けて復習することで、長期的に学習内容を定着しやすくする



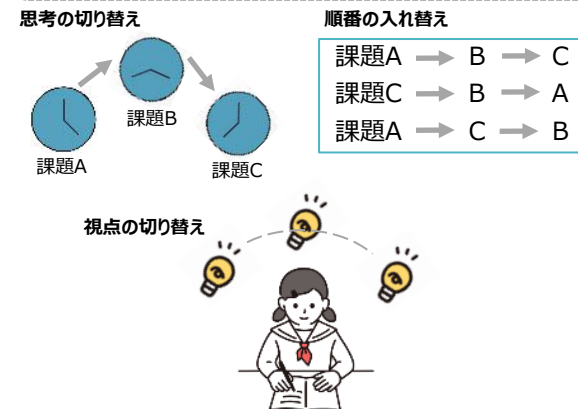
検索練習

学習内容を積極的に思い出す練習をする事で、記憶の定着と新しい状況での応用につながる



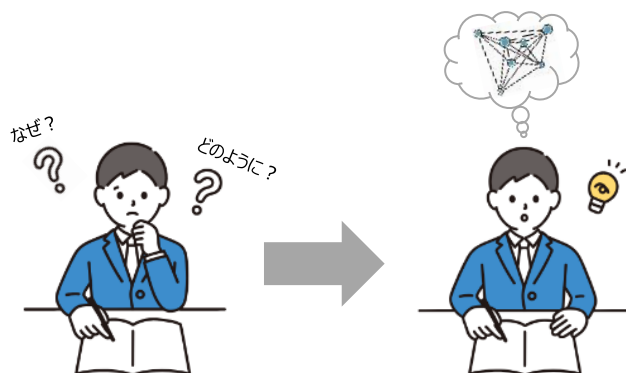
交互配置 (インターリーブ)

同じような問題を解き続けるのではなく、トピックを切り替えながら学習する



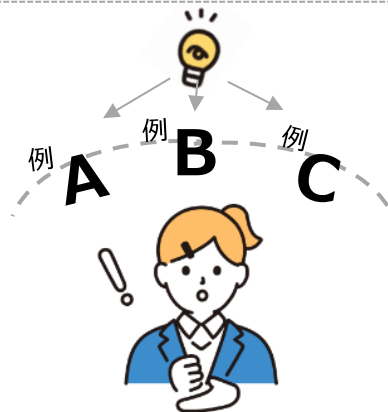
精緻化

理由や意味など、学習している内容に情報を加えて深く、多角的に理解する



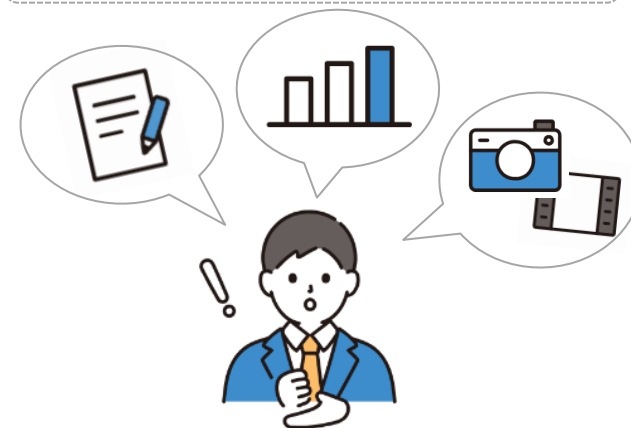
具体化

抽象的な概念を学習する際、具体的な例を用いて説明する



二重符号化 (デュアルコーディング)

言語的な情報と視覚的な情報を組み合わせることで、情報を思い出しやすくする



初歩の学習者と上達した自己調整学習者の比較

自己調整の段階	自己調整学習の区分	
	初歩の自己調整学習者	上達した自己調整学習者
予見 (学習前)	漠然とした目標 ご褒美や他者より高い成績を得ることを重視 学習に不安を抱き、学習を避ける 課題やスキルに関心がない	具体的で順序立てられた目標 自分の能力を高めることを重視 高い学習意欲 課題に強い興味を持ち、積極的に取り組む
遂行 (学習中)	動揺しやすく、周りの環境に影響される 失敗に備えて言い訳を用意したり、自らハードルを下げたりする 自分の行動を振り返らず結果を過大評価する	学習に集中する 課題の進め方を言葉にしたり、情報を視覚的にイメージしたりするなど方略を意識して学習を進める 自分の行動を振り返りながら学習方法を見直す
内省 (学習後)	自己評価を避け、他者との比較をする マイナスの結果を自分の能力のせいにし、その後の学習方法の改善を行わない	自己評価を行う マイナスの結果を学習方法や練習量に照らして振り返り、改善を行う

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』掲載の実践事例①

第4回総則・評価特別部会 資料1-1

実践編①

「ワクワク」と「真剣・能力」の
どちらも揃わない！
戸田市立戸田東小学校の挑戦

全ての子供が熱中できる 単元づくり

【実践編①】戸田市立戸田東小学校の実践事例

- 第5学年／社会／単元「自動車をつくる工業～みんなの願いを乗せた夢のクルマプロジェクト～」
- 単元構想のポイント（本時1/11時間）

自動車工業に関わる人々の「思い」や「願い」を着眼点として、子供が自分なりの「夢のクルマ」を考える課題を学習のゴールに設定し、自動車づくりを自分事として捉えながら工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉えられるようにする。



学習意欲を高める単元を通じた魅力ある学習課題の計画

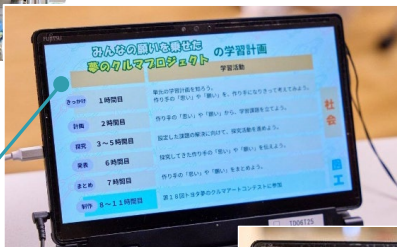
学習前

自動車にこめられた作り手の「思い」や「願い」を単元を通じた着眼点として提示。その上で、単元末に子供一人一人が自分なりの「夢のクルマ」を考え、まとめる活動を計画（学習内容を生かして「トヨタ夢のクルマアートコンテスト」へ作品を出品）。子供のワクワク感を高め、単元のゴールを意識した目的ある学習を促す。

単元の学習計画の共有

学習前

単元導入時に、単元全体の大まかな学習計画を子供と共有。子供が見通しをもって自律的に学習を進めることを促す。



単元を通して考えること 自動車にこめられた人々の「思い」や「願い」とは何なのか？			
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的な態度
A	作り手の「思い」や「願い」が日本の自動車工業を支えていることを理解している。 日本の自動車工業の工程や、世界とのつながりについて理解している。	作り手の「思い」や「願い」というもののことを、資料や写真などを使って伝えようとして理解している。	学習を楽しんでいる。 自分と違う考えを面白がりながら、自分の学習に活かそうとしている。
B	作り手の「思い」や「願い」が分かる。	作り手の「思い」や「願い」を、資料や写真などを使って表現している。	学習を楽しんでいる。 自分と違う考えを面白がりながら、自分の学習に活かそうとしている。
C	日本の自動車工業の工程を理解している。	作り手の「思い」や「願い」を、自分なりに表現している。	学習を楽しんでいる。

ルーブリックの提示

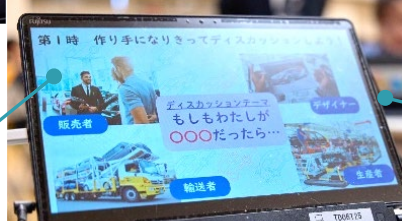
学習前

単元の目標に照らした観点別の評価基準を分かりやすく表したルーブリックを提示。子供が「目指す姿」や自らの資質・能力の高まりを意識しながら学習に取り組むことを促す。

学習課題の工夫

学習中

「カーデザイナー」「生産者」「輸送者」「販売者」4つの選択肢から選んだ立場になりきって、作り手の「思い」や「願い」を探る課題を設定。自分の興味・関心に応じた選択肢を設けることで、子供に自分事として追究することを促す。



学習を自ら調整できる場面を計画的に取り入れる

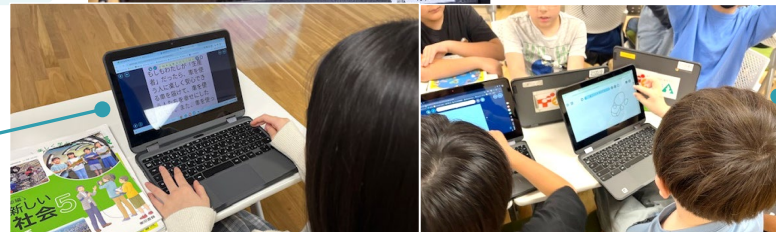
学習中

4つの選択肢から自ら選んだ立場を踏まえて、工業生産に関わる人々の工夫や努力を探究する学習課題を設定し、自ら学習を調整しながら学習を進める場面を計画的に取り入れる。

多様な教材を活用できる環境整備

学習中

教科書、資料集の他、デジタル端末を活用して必要な情報にいつでもアクセスできる環境を整備。子供に目的に応じて多様な教材を選択したり組み合わせたりしながら工夫して学習を進めることを促す。



他者と協働できる環境整備

学習中

追究の状況に応じて友達同士で協力して学習できる環境を整備。子供に必要なに応じて友達と協働しながら自らの考えを広げ深めることを促す。

状況に応じた教師の支援

学習中

子供一人一人の学習状況のきめ細かい見取りを基に、学習がうまく進んでいない子供には発問したり具体的にアドバイスしたりするなど適切に支援。子供のより探究的な学びと学びのさらなる深まりを促す。



互いの考えの共有・関連付け

学習後

「カーデザイナー」「生産者」「輸送者」「販売者」それぞれの立場で考えたことを全体で共有。子供に互いの考えの関連付けを促すとともに、次時への意欲付けや見通しをもつことを促す。

実践編④

【実践編④】加賀市立山代中学校の実践事例

- 第3学年／英語／単元「Unit6 Beyond Borders (New Horizon3)」
- 単元構想のポイント（本時1/9時間）

国際協力、相互協力、相互援助をテーマに扱い、国際社会に対する願いや自分たちが貢献できることについて、国際社会の一員としての子供たちの意識を高めながら、仮定法や関係代名詞といった言語材料を用いて自分の考えを英語で発信することができるようにする。

子供と教師がともに追究する
「主体的・対話的で深い学び」

学習の目的意識を高める導入の工夫

日本と発展途上国それぞれの子供たちの学校生活に関する写真等を提示し、それらを比較させる活動から導入。恵まれない環境に置かれた子供たちの生活に触れることで、単元のテーマである国際協力や相互援助への子供の意識を高め、その後の学習の目的意識を高めることを促す。

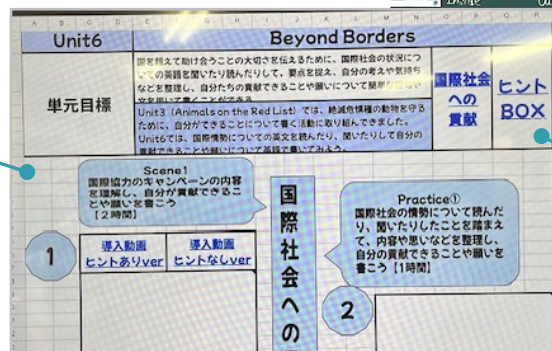
学習前



「単元マップ」による単元の学びの共有

単元導入時に、単元名、単元の目標、単元の学習の流れ、時数、教材（学習材）、評価の観点など、単元の学習に関する情報をまとめた「単元マップ」をデジタル端末・クラウド環境を通じて共有。子供が見通しをもち、単元全体の学習を俯瞰しながら自律的に学習を進めることを促す。

学習前



つまづきを支える学習材の用意

学習中

「単元マップ」内に「ヒントBOX」を設け、子供がつまづきやすいポイントに応じてヒントとなる資料を用意。子供に必要に応じていつでも参照し、自らつまづきを克服して自力で学習を進めることを促す。

個々のペースでアクセス
できるデジタル教材の活用

デジタル教科書とともに、主教材となる「国際協力のキャンペーン動画」（「英語の字幕あり／なし」の2種類）は、「単元マップ」を通じてクラウドで保存。子供は何度でも動画視聴が可能となり、自分のペースで粘り強い取組を促す。

学習中



選択できる課題レベルの設定

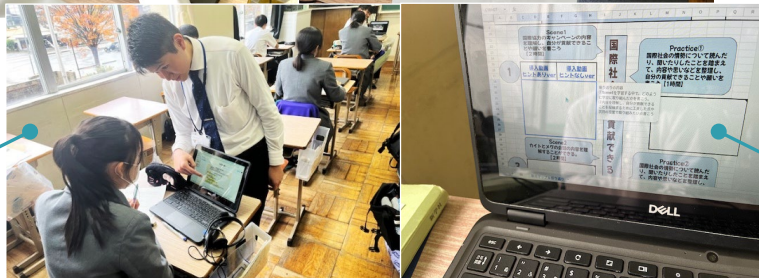
学習中

動画視聴の後、「この地域の子供たちに貢献できること・現状に対する想い」について自分の考えを英語で書く活動の際には、選択できる2種類の課題レベルを設定。子供に理解度に応じて自分に合った課題を選択して課題にチャレンジすることを促す。

教師による積極的な見取りと支援

学習中

子供一人一人の学習状況を見取りながら、特につまづいている子供・困り感を抱く子供に対しては、学習内容のみならず、英語科の特性に応じて学び方のコツを積極的に助言。子供の自律的な学びを支えるとともに、学習意欲の持続を促す。



振り返りの実施と蓄積

学習後

単元マップと一体化した振り返りシートを用意し、学習活動ごとに「学習への取り組み方」「次時に取り組みたいこと」などの視点を提示して振り返りを実施し、記録を蓄積。子供に学びの手応えの自覚と、さらなる学習改善、自律した学び手への成長を促す。



現状認識

- AIは効率性や利便性を大きく向上させるほか、新しい科学的発見や人間の創造性を高める役割も期待されており、最近では自律的に目的を達成する「AIEージェント」や、現実世界でロボット等をAIで動かす「フィジカルAI」など、技術の進展と社会実装が飛躍的なスピードで続いている【参考資料①-1,2,3】
- 我が国においては、2025年12月にAI法に基づくAI基本計画を策定し、「AI社会の実現のために必要不可欠な、AIの利活用・開発を担うAI人材について質・量ともに育成・確保」するよう取り組んでいる【参考資料②】
- 社会の動向を踏まえれば、学校教育でもAIを使いこなす力を育成することが必要であるが、以下のような課題が見られる
 - ✓ AIは検索エンジンなどにも組み込まれているなど、児童生徒は既に日常的にAIに触れている一方、様々なリスクが十分理解されていない【参考資料③】
 - ✓ 特に、ディープフェイク等の犯罪に巻き込まれるリスクが増加していることや、AIへの過度な依存・バイアスの発生や認知過程に与える負の影響（いわゆる認知的オフロードや認知負債を含む）も学術研究等において指摘されている【参考資料④-1,2】
 - ✓ また、「情報技術の活用が「外化」をはじめとする言語能力の発揮を促す活動を欠いて行われた場合、身体性に根ざした人間ならではの価値の創造や意味理解を欠いた、空疎な情報の集積・共有となる恐れもある（例：言語による外化なしに生成AIが生成したものをそのまま使うなど）」など、生成AIの特性や適切な活用方法を理解せずに使うことで、深い学びに繋がりにくくなっているケースも指摘されており、評価の具体的な方法等も含めた検討が必要【参考資料⑤】
- こうした現状も踏まえつつ、第4回情報・技術WGで示した、高等教育との接続も意識しつつ、数理・データサイエンス・AI教育「リテラシーレベル」（AIを「日常の生活や仕事等の場で使いこなす」ことができる）の学習を高校卒業までに全員に保障する枠組の構築に向けて、学校段階ごとの議論を行う必要

1. AIに関して扱うべき内容

- 論点整理において、小・中学校では「生成AI等の先端技術に関わる内容が明確に位置づけられていない」との指摘や、「高等教育の数理・データサイエンス・AI教育等との接続が十分でないという問題意識」が示されている
- このため、論点整理で示された情報活用能力の構成要素（①活用、②適切な取り扱い、③特性の理解）に即して、AIに関する具体的内容を体系的に整理する必要
- また、AIの「①活用」については、自然言語による指示を通じたプログラム作成が可能となっている（いわゆるバンプコーディング等の開発手法を含む）ことを踏まえた検討が必要

2. 技術の進展・変動性を踏まえた対応

- 新たな技術が出てきた場合には、授業において社会的論議に触れるとともに、具体的な内容について学習指導要領解説をタイムリーに一部改訂したり、さらに機動的に対応すべきものは教材・ガイドライン等で扱うという方向性が論点整理において示されているものの、社会的論議として扱うべき内容や、解説、教材・ガイドライン等の更新・改訂に関する支援の方向性が不明瞭



検討の前提となる考え方

- 情報活用能力の位置づけに関する検討状況を踏まえれば、AIを使いこなす力（≡いわゆる「AIリテラシー」）とは、**単なる操作技能ではなく、AI（生成AIを含む）を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく力**と捉えられる
- また、生成AIを含むAI技術は、人間の能力を補助・拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具であり、**経済社会の構造変革や付加価値をもたらす技術として飛躍的発展が続いている**。その一方で、**認知や行動への負の影響を含む様々なリスクを内包していることから、利点の発揮とリスク低減を両立する形での実装が求められている**。
- こうした状況を踏まえれば、AIの「②適切な取扱い」や「③特性の理解」においては、**発達段階に応じて、正負の両面を扱う必要がある**、その上で、**出力を批判的に吟味しながら、利点を生かして「①活用」できるようになることが求められる**と考えられる。
- なお、AIを使いこなす力の育成に係る考え方は、情報活用能力の育成における基本的な考え方を踏まえ、主として核となる教科等で系統的に育成し、各教科等の文脈で効果的に機能させることが適当であると考えられる。
- また、AIの活用が深い学びに繋がらないと考えられる例や各教科等における効果的なAIの活用例を含む、具体的な利活用のポイントは、**各教科等WGでの検討や諸外国の議論、学校現場における実践の蓄積等を踏まえつつ、指導要領改訂を待たずしてガイドライン等で対応するとともに、深い学びの実装に向けた評価の在り方については教育課程全体の議論の中で検討する必要**

1. AIに関して扱うべき内容の整理

- AIを使いこなす力の具体的内容に関しては、情報活用能力の「①活用」「②適切な取扱い」「③特性の理解」という枠組みを意識しながら、**小学校 総合的な学習の時間（情報の領域（仮称））や中学校 情報・技術科（仮称）、高等学校 情報科で検討されている高次の資質・能力等も踏まえつつ検討してはどうか**
- その際、AIは、社会・経済・文化のあらゆる領域に波及し、従来の枠組みを超える質的転換をもたらすものと捉えられることから、**核となる教科等において扱うすべての情報技術や生産技術に大きな影響を与えるものであるという認識**に立って検討する必要があるのではないか
- 具体的な内容の検討にあたっては、
 - AI自体を学ぶこと（②適切な取扱い、③特性の理解）：
例）AIの原理、仕組み、ガバナンス 等
 - AIを使って学ぶこと（①活用）：
例）AIを使ったデザイン、AIを使ったシミュレーション 等に分解し、学校段階ごとに検討することによって、AIの正負の両面の理解や、出力を批判的に評価しつつ利点を生かして活用する方策を体系的に整理することができるのではないか



(AI自体を学ぶこと <②適切な取り扱い、③特性の理解の視点>)

【補足イメージ1】

- AIは、総合的な学習の時間（情報の領域（仮称））や情報・技術科（仮称）、情報科において扱うすべての情報技術や生産技術と密接に関係しているという認識の下、AIそのものを学ぶ内容は学校段階ごとに以下の通り整理してはどうか

小学校 総合的な学習の時間（情報の領域（仮称））

- 例えばAIは使い方によって結果が変わり得ること、偏りや誤りのある結果を生じ、人の行動に影響を与え得ること、その利用には人間の判断が重要であることなど、様々な学習場面で汎用的に求められる、AIの特性及びそれを踏まえた適切な取扱い方に関する内容を精選して学ぶこととしてはどうか

中学校 情報・技術科（仮称）

- 「情報技術（仮称）」領域においては、内容項目横断的に、AIによる予測・生成の仕組みや実社会の様々なデータを活用しつつAIが開発・提供・利用される過程、これらの特性を踏まえた適切な取扱いを学ぶこととし、「情報技術を基盤とした生産技術（仮称）」領域においては、各内容項目の技術の専門領域においてAIが応用されていることを学ぶこととしてはどうか

高等学校 情報科

- AI技術はデータやモデル等の各内容項目の要素から構成されていることを踏まえつつ、情報Ⅰにおいては、AIに関する独立した内容項目を設けるのではなく、すべての内容項目においてAIに関する特性や適切な取扱いに関連する内容を扱うこととしてはどうか。その際、社会におけるAIの利用者としての視点を中心により深くその特性を理解するとともに、数理・データサイエンス・AI教育との接続を踏まえてその内容を充実することを検討してはどうか
- 情報Ⅱにおいても、情報Ⅰ同様、すべての内容項目でAIと関連させながらその内容を学ぶ前提の下、選択科目という特性を踏まえ、さらに「（３）AI（仮称）」において、AIの開発・提供に資する発展的な内容を深く学ぶこととし、機械学習などの数理・データサイエンス教育の応用基礎レベルの要素を一部含むことを検討してはどうか

<参考>

- 小学校段階においては、まず、「②適切な取扱い」「③特性の理解」を学んだ上で、「①活用」を通じた体験的な学びを深める方向性が示されている【第2回情報・技術WG】
- 中学校段階では、各要素の内容を深めつつ、抽象的・科学的な理解を必要とする「③特性の理解」を身に付けることを一層重視する方向性が示されている【論点整理】
- 高等学校段階では、高等教育段階での数理・データサイエンス・AI教育の動向とも連動し、文理を問わず生成AI時代に不可欠な基礎的な素養である「③特性の理解」を身に付ける方向性が示されている【論点整理】



（AIを活用して学ぶこと＜①活用の視点＞）

【補足イメージ2】

- 生成AIは資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目標を達成する観点から効果的か否かを吟味しつつ利活用を検討すべきとされている【第2回情報・技術WG】
- この方向性の下、理解したAIの「②適切な取扱い」や「③特性」を実際の社会や生活において実践的に扱えるようになるための「①活用」方策を習得する際の考え方について、AIが認知や行動に与えるリスクを踏まえつつ、学校段階ごとに以下の通り整理してはどうか

小学校 総合的な学習の時間（情報の領域（仮称））

- 生成AIを用いた絵や音楽、物語や動画の制作【第3回情報・技術WG資料1】などの学習活動の中で、AIの効果的な場面と注意が必要な場面を体験する機会を設け、こうしたリスクに配慮した活用方策を身に付ける

中学校 情報・技術科（仮称）

- AIを一つの技術として捉え、他の技術と組み合わせながら、問題解決の方策を設計・判断・評価する手段として扱うことで、情報・技術科（仮称）の学習過程（①原理と仕組み、②問題解決、③社会における吟味と活用）をより充実させるための活用方策を身に付ける

高等学校 情報科

- AIを多様な情報と結び付け、処理し、新たな情報を予測・生成する情報技術として捉え、他の情報技術と組み合わせながら、探究的に問題・課題を発見・解決するという情報科の学習過程をより充実させるための活用方策を身に付ける

（AIの存在を前提としたプログラム開発について）

- AI技術の進展により、自然言語によって容易にコンピュータへの指示を行い、プログラム開発を行うことや、更なる改善をAIを活用して行うことが可能となっている一方、指示どおりに動作する成果物を生成できれば足りるといった理解にとどまるおそれがある
- しかしながら、安全性の確保をはじめ、社会に対して責任ある形でAIを適切に活用するためには、核となる教科等において、プログラムを構成する内容や仕組みに関する理解を確実に育成することが重要
- この方向性の下で、プログラム開発についても、AIを「①活用」して学ぶことと、仕組みや実装手法、留意点等（「②適切な取扱い」及び「③特性の理解」）を学ぶことを切り分けて整理する必要。その上で、各内容項目においてプログラム開発に関連する学習内容については、技術やサービスの進展等を踏まえ、タイムリーに見直しが行えるよう、学習指導要領解説等で扱う方向で検討してはどうか

2. 情報技術の変動性を踏まえた取扱いについて

- 新たな技術については、不確実性やリスクを前提として、当該技術の利用に伴う影響や課題が時間や立場によって変化すること、社会における受け止めや評価が専門家・制度・市民などの多様な関係者が関わる中で形成されること、そしてその過程を通じて技術の在り方自体が修正されていくことなどの社会的論議を事例を基に取り扱う方向で検討してはどうか
- また、「AIエージェント」の登場といったさらなる技術の進展など情報技術の変動性や陳腐化の可能性を踏まえ、新たな技術の特性に関する内容やその活用方法については、学習指導要領解説や教材・ガイドライン等において、予算事業等も含めて対応してはどうか

議題 2

系統性・体系性等の整理について

1. 現状等

(1) 系統性・体系性の考え方

- ・ 社会科・地理歴史科・公民科の系統性・体系性として、小学校社会科において、社会的事象を総合的に捉えた上で、中学校社会科において分野別に大きな流れを把握し、高等学校地理歴史科・公民科においてより学びを深めていく構造となっている。
- ・ 例えば、歴史領域においては、小学校で先人の業績や優れた文化遺産、中学校で我が国の歴史の大きな流れ、高等学校で歴史の変化や展開等に関わる諸事象について学ぶこととなっている。これらは、発達段階に応じて必要な資質・能力を育む観点から必要な事項を定めているものであり、同一内容を同様に扱っているものではない。一方で、これらの内容については児童生徒の深い学びを実現していく観点から不断に見直しを行っていくことが必要である。

(2) 内容の枠組みや対象の整理

- ・ 社会的事象を総合的に捉える小学校社会科において、教員は、指導している内容が社会科全体においてどのような位置づけにあるか、中学校社会科とどのようにつながるか、といったことを意識しづらいという点を踏まえ、小中学校の社会科の内容を、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活という三つの枠組みに位置付けるとともに、①と②は空間的な広がりを念頭に地域、日本、世界、③は社会的事象について経済・産業、政治および国際関係に整理し、小・中学校学習指導要領解説において、系統的・体系的に意識できるよう示している。これらの系統性・体系性が十分に機能しているかという視点で見直しを行うことが必要である。

2. 改善の方向性

- ・ 今次改訂において、教育内容や科目構成の見直しを行い、内容・構造の改善に一定の成果が見られること（第一回WG資料 p 2 参照）を踏まえ、小中高を通じた、現行の系統性・体系性の大枠を基本としつつ、理解をより深める観点から、以下の視点で見直す方向で考えてはどうか。

(1) 小・中・高等学校を通じた整理の考え方

内容の充実を図る際、全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る観点から、以下のように教育内容を整理する際の考え方を示すことの適否についてどのように考えるか。

<整理の考え方>

- ①社会科等の「高次の資質・能力」を育成するために必要な内容となっているか。
→ 調整授業時数制度により標準を下回って柔軟に時数設定される場合も考慮する必要。このような視点も含め、深い学びを実現するための授業づくりの具体的なイメージ例の提示と併せ、高次の資質・能力に照らして内容項目の精選を図ることも検討
- ②小・中・高等学校の各内容の枠組みと対象の系統性・体系性が明確か（校種間や科目間で重複している内容は、児童生徒の発達段階に応じ、適切な学校種や科目に位置付けるよう再整理）
→ 他教科等の内容と重複する内容についても、社会科の資質・能力を育成する上で真に必要な内容なのかを踏まえて整理することも検討
- ③社会情勢の変化や社会参画意識に関する課題の観点から真に必要な内容が含まれているか

2. 改善の方向性

(1) 高等学校段階（地理歴史科）

小・中・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、高等学校地理歴史科においては、小学校や中学校の学習を踏まえた学びを深めるために科目全体の見通しをもたせる導入単元への見直しをしたり、探究的な学びを促進したりする改善を図ってはどうか。

①地理領域科目 【補足イメージ2：38ページ】

○必修修科目（地理総合）

ア. 現状と課題

- 「地理総合」においては、生徒が高等学校で地理を学ぶ意味や意義を学んだり、地理総合全体を見通す項目が設定されておらず、各中項目で習得した資質・能力を関連付けた学習が十分とはいえない。
- また、A(1)「地図や地理情報システムと現代世界」は、地理学習の基本的な技能を身に付けることとされており、単元内では技能の習得が一定程度見られるが、その後の学習においては、生徒が主体的に地理情報システム（GIS）を活用した学習に必ずしもつながっていない。

○選択履修科目（地理探究）

ア. 現状と課題

- 現行学習指導要領において、必修修科目としての「地理総合」、選択履修科目としての「地理探究」が設置され、資質・能力の育成を踏まえた探究的な学びへの転換が図られ、一定の成果はみられるものの、特に探究科目においてその理解の深まりや広まりは十分ではない。
- また、中学校社会科地理的分野のB世界の様々な地域(2)「世界の諸地域」と、地理探究B現代世界の地誌的考察(2)「現代世界の諸地域」の学習において、ある程度差別化はされているものの、内容の重複がみられる。

イ. 改善方策（案）（導入単元への見直し）

- 「地理総合」において、大項目Aを再編して、地理を学ぶ意味や意義に気付き、科目の学習の見通しをもつための導入単元「地理と私たち（仮称）」へ見直す方向で検討してはどうか。
- その際、中学校との接続を踏まえ、地理総合の導入として、景観観察で収集した情報をGISを活用して可視化することで、地理の学習と実社会とのつながりを感じられるようにすることが考えられる。
- また、導入単元と各中項目を関連付け、生徒が科目のまとめであるC(2)「生活圏の調査と地域の展望」まで全体を見通して学習できるようにしてはどうか。あわせて、GISについて、その後の学習においても生徒が主体的に活用できるようにするために、解説に事例を示したり、活用する場面を設定する方向で検討してはどうか。

イ. 改善方策（案）（探究的な学びの充実）

- 「地理探究」のB(2)「現代世界の諸地域」を再編して、探究的な学びを促進する新項目「地誌的考察と持続可能な社会づくり（仮称）」へ見直す方向で検討してはどうか。
- 現行解説の大項目B(2)には「世界全体を隈なく取り上げるものではないことに留意する」という記述があり、この趣旨をより徹底し、一定のテーマで区分された地域を対象として、課題を設定し、地誌的に考察するとともに、地理的な諸課題の解決の方向性や今後の望ましい地域の在り方を展望する学習活動としてはどうか。
- 中学校社会科、地理総合、地理探究を通じた探究的な学びの系統性・体系性を重視する。地理探究では、特に大項目B(2)とCの学習の接続をより強めることで、大項目Cの学習を充実させる方向で検討してはどうか。

2. 改善の方向性

(1) 高等学校段階（地理歴史科）

②歴史領域科目

○共通（歴史総合、日本史探究、世界史探究）

ア. 現状と課題

- ・ 現行学習指導要領において、必修科目としての「歴史総合」、選択履修科目としての「日本史探究」、「世界史探究」が設置され、資料の考察から課題意識を形成したり、近現代の歴史の変化の理解を深めたり、現代的な諸課題の展望を表現したり、現代の日本の課題や地球世界の課題について生徒が歴史的経緯から考察や構想を深めることなどを一連の構成として、内容の構造化が図られてきた。

その結果として、探究的な学びへの転換に一定の成果が見られる。

- ・ 一方で、各学校の指導計画の作成において、学習単元を構成する際に、資質・能力の育成を目指して、内容を構造化し単元を構成することに課題が見られる。その一因として、現行学習指導要領の記載では、内容の各項目の関係性や課題を追及したり解決したりする活動との関係がわかりにくいことが挙げられる。

イ. 改善方策（案）

- ・ 単元（個別の事象を題材に、段階的に思考を深めながら統合的に理解する学習上の構造）を設計しやすくするため、表形式化することなどによって、学習指導要領の内容の各項目が互いに関連をもち、単元を構造化する枠組みとして機能することを明確にしてはどうか。

2. 改善の方向性

(1) 高等学校段階（地理歴史科）

②歴史領域科目

○選択履修科目（日本史探究、世界史探究）

ア. 現状と課題

- ・「歴史総合」において、資料を扱う際の留意点に気付くことを促す項目が設定され、その後の学習に生かすことで生徒が資料を活用し考察する学習や技能の定着が一定程度見られる一方で、日本史探究や世界史探究においては、「歴史総合」で獲得した資料を活用した学び方が踏まえられていない。
- ・「課題を追究したり解決したりする活動」を通した学習を重視する学習指導要領の趣旨と、「日本史探究」や「世界史探究」の教科書における記述内容との間に乖離があることが指摘されている。このため、教師が探究的な学びを目指した単元設定を行うに際して困難が生じている。
- ・このため、様々な要因があり一概には言えないものの、「日本史探究」や「世界史探究」について、「歴史総合」と比較し、個別の事象を網羅的に取り扱ってしまう「知識」中心の授業が未だに行われる要因になっていると考えられる。

イ. 改善方策（案）

- ・高次の資質・能力とのつながりを明確にしながら、各単元のまとめに諸地域を読み解く観点や、諸事象の解釈や歴史の画期などから生徒が形成した観点などを踏まえて探究的に学習した結果を表現することを促すことを明記してはどうか。
【補足イメージ3：39ページ】
- ・学習上の課題（問い）や段階的な課題（問い）の設定の方法、資料活用の具体例、生徒自身による問いの表現やその活用、探究的な学びと生徒が自ら行う探究活動との関連などについて、より分かりやすく記述する方向で検討してはどうか。
- ・歴史領域科目の教科書、特に探究科目である「日本史探究」や「世界史探究」の教科書において、例えば、学習指導要領の内容項目の構成を明確にしたり、今回整理している「高次の資質・能力」を活用して歴史に関わる個別的な事象を整理しやすくする工夫を行ったりして、探究的な学びの充実に向かう様々な工夫・改善が図られるように促すことが考えられる。
- ・日本史探究や世界史探究の授業が、探究的な学びへの改善に繋がるよう、上述のような改善を教科書発行者が行えるようにするため、国において、高次の資質・能力を踏まえ、学習指導要領の内容項目において、知識を身に付けることとされている事象の関連性の整理を一層進めるとともに、教科書発行者に対して、上述で示した学習上の課題（問い）や段階的な課題（問い）の設定方法などの充実内容やその趣旨等を踏まえた教科書編集がなされるよう促すこととしてはどうか。

2. 改善の方向性

(2) 高等学校段階（公民科）

小・中・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、高等学校公民科においては、小・中学校の学習で習得した視点や方法（考え方）を用いるなどして探究する学習を一層推進する工夫や手立てを充実してはどうか。

① 必修科目（公共）

ア. 現状と課題

- ・ 「大項目A」における選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的な原理についての理解が進んだ
一方、大項目B及びCでは、大項目Aで学習した概念や考え方をを用いて他者と協働しながら課題を追究したり解決したりする活動について、課題として指摘する声がある。
＜具体的な成果や課題の例＞
 - － 「大項目B」では、現実社会のできごとや意味について、学習した概念や考え方をを用いて考察することなどについては、一定の成果が見られるものの、主要な概念を深く理解することや、適切な学習課題を生徒が自ら設定する学習活動が不十分
 - － 「大項目C」では、科目のまとめとして、現代の諸課題について追究したり解決したりする活動を通じて、社会の一員としてよりよい社会づくりを自ら考えさせることについては一定の成果が見られるものの、課題解決後の新しい課題発見に関する学習活動が不十分（生徒が学習を自ら振り返ったり、さらに調べてみたいことを考えたりすることなど）
- ・ また、「公共」での学習を通じて、社会の現状を的確に把握することや、専門家や関係諸機関などとの連携・協働を図ることに課題が見られる。

② 選択履修科目（倫理、政治・経済）

ア. 現状と課題

- ・ 「公共」の学習では、社会における様々な場面で活用できる概念についての理解を踏まえ、具体的な状況に即して、「課題を追究したり解決したりする活動」に成果が見られるものの、「公共」の学習を踏まえて、「倫理」「政治・経済」でも選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的な原理を用いることや、「倫理」「政治・経済」での探究的な学習につなげることに課題が見られる。

イ. 改善方策（案）

- ・ 大項目B・Cでは、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的な原理が効果的に用いられるように、次のような改善を図ることとしてはどうか。
 - － 大項目B：
 - ・ 内容のまとまりとして現実社会の事柄や課題を関連づけて捉えた主題を設定しやすくするために、13の事柄や課題を10の事柄や課題に精選。
【補足イメージ4：40ページ】
 - ・ 人間や社会の在り方を捉える視点や方法（考え方）を用いて考察したり構想したりする活動を通して、現実の具体的な社会的事象と主要な概念とを関連付ける観点からわかりやすく示す。
 - － 大項目B・C：
 - ・ 他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を行う際には、詳細な制度や仕組みの解説ではなく、本来当該活動で目指している基本的な原理に焦点化し利益衡量を図るよう示す。
- ・ 社会参画意識の涵養に関する指導の質的な充実を図るために、社会の現状を的確に把握することや、専門家や関係諸機関などとの連携・協働を図ることを一層推進できるような工夫を示してはどうか。

イ. 改善方策（案）

- ・ 「倫理」と「政治・経済」については、探究する学習で扱う諸課題について、社会の情勢を踏まえた見直しを図る。
【補足イメージ5、6：41、42ページ】
 - ※諸課題については、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択
- ・ 各科目の趣旨やねらいのもとで、「公共」の学習を踏まえた、「倫理」「政治・経済」での探究的な学習という構造を明確にするために、「公共」と「倫理」「政治・経済」との関係性をさらにわかりやすく示してはどうか。【補足イメージ7：43ページ】

地理を学ぶ意味や意義、地理総合の学習の見通しをもつための導入単元へ見直す方向で検討してはどうか。（水色マーカー部分）

地理総合

A 地理と私たち（仮称）	B 国際理解と国際協力	C 持続可能な地域づくりと私たち	
(1) 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 生活文化の多様性と国際理解 (2) 地球的課題と国際協力	(1) 自然環境と防災	(2) 生活圏の調査と地域の展望
ねらい： ・中学校の学習を踏まえた、地理領域科目の入り口 ・地理を学ぶ意味や意義 ・地理総合全体を俯瞰し、科目における学習の見通しをもつ ・地図や地理情報システム（GIS）の役割や有用性の理解と、それらを用いた技能の習得	課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな問いにつなげる。 ※A(2)→B→C(1)と、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける	生徒が自ら主題を設定して考察・構想	

B(2)で地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望することを促す場面を設定し、C(1)でより探究を深められるように充実を図ってはどうか。（紫色マーカー部分）

地理探究

A 現代世界の系統地理的考察	B 現代世界の地誌的考察		C 現代世界におけるこれからの日本の国土像
(1) 自然環境 (2) 資源、産業 (3) 交通・通信、観光 (4) 人口、都市・村落 (5) 生活文化、民族・宗教	(1) 現代世界の地域区分	(2) 地誌的考察と持続可能な社会づくり（仮称）	(1) 持続可能な国土像の探究
課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな課題につなげる。 ※A(1)→B(1)と、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける	生徒が自ら地域や主題を設定して地誌的に考察、構想 ※課題解決・新たな課題：地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望し、新たな課題に向かう場面を創設		生徒が自ら主題を設定して考察・構想 B(2)課題解決・新たな課題を踏まえる

高次の資質・能力につながりを明確にしながら、単元のまとめで探究的に学習した結果を表現することを促すことを明記してはどうか。（黄色マーカー部分）

歴史総合

※示されている項目名は現行のもの。

A 歴史の扉	B 近代化と私たち	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	D グローバル化と私たち	
(1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料	(1) 近代化への問い (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題	(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会 (3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済 (3) 世界秩序の変容と日本	(4) 現代的な諸課題の形成と展望
ねらい：科目への導入、歴史を学ぶ意義、学習基盤となる資料の取扱い	(1)＝課題把握：生徒が近現代の変化について問いを表現する (2)(3)＝課題追究（情報収集、考察）：近現代の歴史の変化に関する主題を設定し、資料を活用して考察する (4)＝課題解決・新たな課題：近現代の歴史の変化と現代とのつながりを考察する ※B→C→Dと、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける			生徒が自ら主題を設定して考察・構想

日本史探究

世界史探究

A 原始・古代の日本と東アジア	B 中世の日本と世界	C 近世の日本と世界	D 近現代の地域・日本と世界		A 世界史へのまなざし	B 諸地域の歴史的特質の形成	C 諸地域の交流・再編	D 諸地域の結合・変容	E 地球世界の課題	
(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	(4) 現代の日本の課題の探究	(1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史	(1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	(1) 諸地域の交流・再編への問い (2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の变容	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	(4) 地球世界の課題の探究
(1)(2)＝課題把握：時代の転換の考察を踏まえて、生徒が時代を通観する問いを表現し、資料を活用して仮説を表現する (3)＝課題追究（情報収集、考察）：資料を活用して、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現する。 ※課題解決・新たな課題：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 ○A→B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける				生徒が自ら主題を設定して考察・構想	科目への導入（世界史を本格的に対象とするのは初めてのため）	(1)＝課題把握：諸地域を読み解く観点について考察し、問いを表現する (2)(3)(4)＝課題追究（情報収集、考察）：世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸地域を軸に構造的に把握するための主題を設定し、資料を活用して考察する。 ※課題解決・新たな課題：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 ○B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける			地球世界の課題を主題に設定した学習	生徒が自ら主題を設定して考察・構想

➤ 現行学習指導要領の13の事柄や課題

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ①法や規範の意義及び役割
- ②多様な契約及び消費者の権利と責任
- ③司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ④政治参加と公正な世論の形成、地方自治
- ⑤国家主権、領土（領海、領空を含む。）
- ⑥我が国の安全保障と防衛
- ⑦国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ⑧職業選択
- ⑨雇用と労働問題
- ⑩財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- ⑪市場経済の機能と限界
- ⑫金融の働き
- ⑬経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

➤ 改善イメージ（10の事柄や課題）

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ①法や規範の意義及び役割、多様な契約（消費者の権利と責任を含む。）

- ②司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ③政治参加と公正な世論の形成、地方自治
- ④国家主権、領土（領海、領空を含む。）
- ⑤我が国の安全保障と防衛

- ⑥国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ⑦雇用と労働問題（職業選択を含む）

- ⑧財政及び租税の役割、人口減少社会における社会保障の充実・安定化

- ⑨市場経済の機能と限界、経済活動を支える金融の働き

- ⑩経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

➤ 現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目 B (1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ウ)）

- 「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- 「自然」…人間の生命が自然の生態系の中で、植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、調和的な共存関係が大切であることについても思索できるようにすること。
- 「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

・大項目 B (2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(イ)）

- 「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、共生といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。
- 「文化と宗教」…文化や宗教が過去を継承する人類の知的遺産であることを踏まえ、それらを尊重し、異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索できるよう指導すること。
- 「平和」…人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想できるよう指導すること。

➤ 改善イメージ（課題の例）

・大項目 B (1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ウ)）

- 「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、**病と治療や老い**、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- 「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の**正負の側面**と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

※「自然」については現行のとおり

・大項目 B (2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(イ)）

- 「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、**共生・包摂**といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。

※「文化と宗教」「平和」については現行のとおり

➤ 現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目 A (2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- 地域社会の自立と政府
- 多様な働き方・生き方を可能にする社会
- 産業構造の変化と起業
- 歳入・歳出両面での財政健全化
- 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- 防災と安全・安心な社会の実現 など

・大項目 B (2)「国際社会の諸課題の探究」

- グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- 地球環境と資源・エネルギー問題
- 国際経済格差の是正と国際協力
- イノベーションと成長市場
- 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- 持続可能な国際社会づくり など

➤ 改善イメージ（課題の例） ※赤字は新たに追加等した課題例

・大項目 A (2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- **人口減少**社会における社会保障の充実・安定化
- 地域社会の自立と政府
- 多様な働き方・生き方を可能にする社会 **（起業含む）**
- 歳入・歳出両面での財政健全化
- 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- 防災と安全・安心な社会の実現 など

+

● 労働市場のグローバル化と国内の産業構造の変化

● 選挙制度と多様なメディア

● 生成AIなどデジタル技術の発展が進む社会

・大項目 B (2)「国際社会の諸課題の探究」

- グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- 地球環境・**気候変動**と資源・エネルギー問題
- 国際経済格差の是正と国際協力
- イノベーションと成長市場
- 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- 持続可能な国際社会づくり など

+

● デジタル主権の進展

● 複雑化する国際情勢と分極化

● 国際社会における国際法の役割

『公共』の内容の構成のイメージ

基本的原理 利益衡量

小・中学校社会科、道徳や地理歴史科などで育んだ資質・能力を用いる

大項目A

大項目B

大項目C

自立した主体として
社会に参画するために必要
な資質・能力

公共

現代社会の諸課題の解決に向けて、自立するとともに他者と協働して、公共的な空間を創る主体として選択・判断の規準を身に付け、考察する。

倫理

他者と共に生きる主体を育むために、現代に生きる人間の倫理的課題について探究し、自立して思索する。

政治・経済

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育むために、現実社会の諸課題を広く深く探究する。

『倫理』の内容の構成のイメージ

人間としての在り方生き方 思索

小・中学校社会科や地理歴史科などで育んだ資質・能力を用いる

「公共」

大項目A

大項目B

人間尊重の精神と生命に対する
畏敬の念に基づいて、グロー
バル化する国際社会に主体的に生
きる公民としての資質・能力

「公共」で育んだ
資質・能力を用いる

『政治・経済』の内容の構成のイメージ

原理 仕組みや制度

小・中学校社会科や
地理歴史科などで育んだ
資質・能力を用いる

「公共」

大項目A(1)

大項目B(1)

大項目A(2)

大項目B(2)

「公共」で育んだ
資質・能力を用いる

自立し、主体的に生きる国
民主権を担う公民として他
者と協働して、現実社会の
諸課題も解決策を構想し、
それを表現して他者に伝え
意見を取りまとめて合意を
形成していくことができる
資質・能力



（参考）小・中学校社会科における内容の枠組みと対象

		地理的環境と人々の生活			現代社会の仕組みや働きと人々の生活			歴史と人々の生活		
		地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界
小学校	3年	身近な地域や市の様子 仕事の種類や産地			地域に見られる生産や販売の仕事	市役所などの公共施設の場所と働き 地域の安全を守る働き	国際化 外国との関わり	市の様子の変り変わり		
	4年	県の様子 県内の特色ある地域の様子	47都道府県の名称と位置		人々の健康や生活環境を支える事業 開発、産業などの事例（選択）	自然災害から人々を守る活動 国際交流に取り組む地域		公衆衛生の向上 過去に発生した地域の自然災害 県内の伝統や文化、先人の働き		
	5年	我が国の国土の様子と国民生活 生産物の種類や分布 工業の盛んな地域の分布 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々		自然環境に適応して生活していること 我が国の農業や水産業における食料生産 我が国の工業生産 我が国の産業と情報との関わり 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		輸入など外国との関わり 貿易や運輸		生産量の変化 技術の向上 工業製品の改良 情報を生かし発展する産業	
	6年			外国の人々の生活の様子		我が国の政治の働き 我が国の国際協力			我が国の歴史上の主な事象	国際社会での重要な役割 ・当時の世界との関わり
中学校	地理的分野	◎地域調査の手法 ◎地域の在り方	地域構成（日本） 日本の地域的特色と地域区分 日本の諸地域	地域構成（世界） 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	資源・エネルギーと産業 産業を中核とした考察の仕方		交通・通信 州という地域の広がりや地域内の結び付き	地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点 地域の変容		
	歴史的分野				ギリシャ・ローマの文明 ・市民革命 ・立憲国家の成立と議会政治 ・国民の政治的自覚の高まり ・我が国の民主化と再建の過程			◎歴史との対話 近世の日本とアジア 近現代の日本と世界		世界の古代文明や宗教の起り ・武家政治の成立とユーラシアの交流 ・世界の動きと統一事業 ・欧米諸国における近代社会の成立とアジア諸国の動き ・日本の民主化と冷戦下の国際社会
	公民的分野		少子高齢化	情報化、グローバル化	私たちが生きる現代社会と文化の特色 現代社会を捉える枠組み 私たちと経済 私たちと政治 世界平和と人類の福祉の増大		文化の継承と創造の意義			
よりよい社会を目指して										

※太字は内容の大項目

(参考) 高等学校地理領域科目と小・中学校の学習内容との関係について

※第4回WGから再掲
※紫色ハイライトは追記

小学校社会

【第3学年】

- (1) 身近な地域や市区町村の様子
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事 ※
- (3) 地域の安全を守る働き
- (4) 市の様子の移り変わり

【目標(1)】身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、**地域の様子の移り変わり**について、人々の生活との関連を踏まえて理解する。

- 市はどこに位置しているか、どのように広がっているか、どのように利用されているかなどの問いを設けて調べたり、場所ごとの様子を比較して違いを考えたりして、調べたことや考えたことを表現する

【第4学年】

- (1) 都道府県の様子
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業
- (3) 自然災害から人々を守る活動
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働き
- (5) 県内の特色ある地域の様子

【目標(1)】自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解する。

- 自分たちの県の概要や特色を考え、文章で記述したり、白地図などにまとめたことを基に説明したりすること
- 県内の特色ある地域が大まかに分かるようにする

【第5学年】

- (1) 我が国の国土の様子と国民生活
- (2) 我が国の農業や水産業 ※
- (3) 我が国の工業生産 ※
- (4) 我が国の産業と情報との関わり
- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連

【目標(1)】我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解する。

- 世界の中における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにする
- 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにする

※一部内容が含まれるもの

中学校社会

【地理的分野】

- A (1) 地域構成
- B (1) 世界各地の人々の生活と環境
- B (2) 世界の諸地域
- C (1) 地域調査の手法
- C (2) 日本の地域的特色と地域区分
- C (3) 日本の諸地域
- C (4) 地域の在り方

【目標(1)】我が国の国土及び世界の諸地域に関して、**地域の諸事象や地域的特色**を理解する…

- 115単位時間での実施（一般的に第1学年と第2学年）
- ESDの視点から世界の諸地域学習における地球的課題の視点を導入し、動態地誌的な視点から日本の諸地域学習における考察の仕方を柔軟化。また、地域調査に関わる内容構成を見直し
- 位置や分布、場所、人間と自然との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域**に関わる視点に着目した考察

(歴史的分野)

【公民的分野】

高等学校地理歴史科 〔地理領域科目〕

【地理総合】

- A (1) 地図や地理情報システムと現代世界
- B (1) 生活文化の多様性と国際理解
- B (2) 地球的課題と国際協力
- C (1) 自然環境と防災
- C (2) 生活圏の調査と地域の展望

【目標(1)】地理に関わる諸事象に関して、**世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組**などを理解する…

- 汎用的で実践的な地理的技能を基に、グローバルな視点から求められる自他の文化の尊重と国際協力、我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災に関する学習の充実。
- まとめの中項目として、持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望が設定され、探究する手法を理解。

【地理探究】

- A (1) 自然環境
- A (2) 資源、産業
- A (3) 交通・通信、観光
- A (4) 人口、都市・村落
- A (5) 生活文化、民族・宗教
- B (1) 現代世界の地域区分
- B (2) 現代の諸地域
- C (1) 持続可能な国土像の探究

【目標(1)】地理に関わる諸事象に関して、**世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題**などを理解する

【目標(3)】地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養う

(参考) 高等学校歴史領域科目と小・中学校の学習内容との関係について

※第4回WGから再掲
※紫色ハイライトは追記

小学校社会

〔第3学年〕

- (1) 身近な地域や市区町村の様子
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事
- (3) 地域の安全を守る働き
- (4) 市の様子の移り変わり

〔第4学年〕

- (1) 都道府県の様子
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業 ※
- (3) 自然災害から人々を守る活動 ※
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働き
- (5) 県内の特色ある地域の様子 ※

〔第5学年〕

- (1) 我が国の国土の様子と国民生活
- (2) 我が国の農業や水産業 ※
- (3) 我が国の工業生産 ※
- (4) 我が国の産業と情報との関わり ※
- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連

※一部内容が含まれるもの

〔第6学年〕

- (1) 我が国の政治の働き
- (2) 我が国の歴史上の主な事象
- (3) グローバル化する世界と日本の役割

【目標(1)】…国家及び社会の発展に大きな働きをした**先人の業績や優れた文化遺産**…について理解する

- 第6学年の「内容」にある三つの項目の一つとして実施
- 42名の人物の例示、「(国宝、重文、世界文化遺産など) 代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮」(内容の取扱い)
- 主に、**起源、変化、継承(時期や時間の経過)**などを問う視点に着目して考察

中学校社会

(地理的分野)

〔歴史的分野〕

- A (1) 私たちと歴史
- A (2) 身近な地域の歴史
- B (1) 古代までの日本
- B (2) 中世の日本
- B (3) 近世の日本
- C (1) 近代の日本と世界
- C (2) 現代の日本と世界

【目標(1)】我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、**各時代の特徴を踏まえて理解する**…

- 115単位時間での実施 (一般的に第1学年から第3学年1学期途中まで)
- 時代区分の意味を踏まえ、時代の特徴を表現(時間軸による事象の整理)
- (時期、年代など) **時系列**、(展開、変化、継続など) **諸事象の推移**、(類似、差異、特色など) **諸事象の比較**、(背景、原因、結果、影響など) **事象相互のつながり**などに関わる視点に着目した考察

〔公民的分野〕

〔歴史総合〕

- A 歴史の扉
- B 近代化と私たち
- C 国際秩序の変化や大衆化と私たち
- D グローバル化と私たち

【目標(1)】**近現代の歴史の変化に関わる諸事象**について、**世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する**

- 近現代の歴史の大きな変化(近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化)に着目した単元構成
- 各単元のまとめは、現代的な諸課題につながる歴史的な観点(自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調など)から主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする活動を通して考察

〔日本史探究〕

- A 原始・古代の日本と東アジア
- B 中世の日本と世界
- C 近中世の日本と世界
- D 近現代の地域・日本と世界

【目標(1)】**我が国の歴史の展開に関わる諸事象**について、**地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する**

【目標(3)】
よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う

〔世界史探究〕

- A 世界史へのまなざし
- B 諸地域の歴史的特質の形成
- C 諸地域の交流・再編
- D 諸地域の結合・変容
- E 地球世界の課題

【目標(1)】**世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象**について、**地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する**

〔必履修科目〕
〔選択科目〕
高等学校地理歴史科
〔歴史領域科目〕

(参考) 高等学校公民科目と小・中学校の学習内容との関係について

※第4回WGから再掲
※紫色ハイライトは追記

小学校社会

【第3学年】

- (1) 身近な地域や市区町村の様子 ※
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事
- (3) 地域の安全を守る働き
- (4) 市の様子の移り変わり ※

【目標(1)】…地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、…について理解する

- 販売の仕事において、「他地域や外国との関わり」を取り上げる

【第4学年】

- (1) 都道府県の様子
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業
- (3) 自然災害から人々を守る活動
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働き ※
- (5) 県内の特色ある地域の様子 ※

【目標(1)】…地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動…について理解する

- 自然災害から人々を守る活動において、政治の働きに関心を高めるようにすることを重視する

【第5学年】

- (1) 我が国の国土の様子と国民生活 ※
- (2) 我が国の農業や水産業
- (3) 我が国の工業生産
- (4) 我が国の産業と情報との関わり
- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連

【目標(1)】我が国の国土の…産業の現状、社会の情報化と産業の関わり…について理解する

- 我が国の農業や水産業における食料生産に関する内容については、「価格や費用」を示している
- 我が国の工業生産に関する内容については、「工業生産を支える役割」を考える
- 我が国の産業と情報との関わりに関する内容については、「情報化に伴う生活や産業の変化」を視野に入れて取扱う

※一部内容が含まれるもの

【第6学年】

- (1) 我が国の政治の働き
- (2) 我が国の歴史上の主な事象
- (3) グローバル化する世界と日本の役割

【目標(1)】我が国の政治の考え方と仕組みや働き…我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割…について理解する

- 政治の働きへの関心を高めるようにすることを重視、国や地方公共団体の政治の取組に関する内容については、「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わり」を取り上げる
- グローバル化する世界と日本の役割に関する内容については、日本とつながりの深い国の人々の生活に関する内容として、「国際交流の果たす役割を考える」

〔地理的分野〕

〔歴史的分野〕

【公民的分野】

- (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色
- (2) 現代社会を捉える枠組み
- (1) 市場の働きと経済
- (2) 国民の生活と政府の役割
- (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則
- (2) 民主政治と政治参加
- (1) 世界平和と人類の福祉の増大
- (2) よりよい社会を目指して

【目標(1)】個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深める…

- 140単位時間での実施（一般的に第3学年1学期途中から）
- 現代社会を捉え、多面的・多角的に考察、構想する際に働かせる概念的な枠組みの基礎として、対立と合意、効率と公正などを取り上げ、現代社会を捉える枠組みを養う
- 課題の特質に応じた視点（概念など）に着目して考察したり、よりよい社会の構築に向けて、その課題の解決のための選択・判断に資する概念などを関連付けて構想したりするなど、現代社会の見方・考え方を働かせる
- 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養う

中学校社会

高等学校公民科

〔必修修科目〕
〔選択科目〕

【公共】

- 公共の扉
- 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
- 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

【目標(1)】現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する

- 現実社会の諸課題に関わる主題を設定し、追究したり解決したりする活動
- 社会に参画する際に選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本原理の習得
- 自立した主体として社会に参画するために必要な資質・能力を育成する内容構成

【倫理】

- 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方
- 現代の諸課題と倫理

【目標(1)】古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する…

【目標(3)】

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

【政治・経済】

- 現代日本における政治・経済の諸課題
- グローバル化する国際社会の諸課題

【目標(1)】社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する…

1. 「高次の資質・能力」を踏まえた内容検討の必要性

【検討項目④との関係】

- 検討項目④では、「高次の資質・能力」により構造化を図ることで、「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする方策について検討を行った
- この「高次の資質・能力」による内容の構造化は、「深い学び」の実装に向けた授業づくりを支え、学習過程の改善に資するとともに、学習指導要領等に示す個別の学習内容について、「各教科等の本質的な理解の獲得を重視する観点から真に必要なものか」という視点から見直す大きな契機となる

【論点整理で示されたこと】

- 論点整理においても、構造化に当たり「各教科等の本質的な理解の獲得に重点を置き、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、そのために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選を行ったりしていくことが必要である」と示している
- また、教科の主たる教材として学習指導に重要な役割を果たす教科書についても、「学習指導要領の構造化の考え方を踏まえ、教科書の内容は教科等の中核的な概念等を掴みやすいものに精選する」という方向性を示している



- こうした学習指導要領等に示す内容の検討と必要に応じた精選、それに伴う教科書の精選の在り方について、各WGの検討に先立ち、基本的な考え方を整理する必要

検討項目⑤ 中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選(2)

令和7年10月14日
総則・評価特別部会 資料1-1より

2. 各WGにおける検討に当たっての基本的な考え方

- 「高次の資質・能力」については、①各教科等の本質的な意義や背景にある学問的な系統性から演繹的に導かれる側面と、②既にある個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の2つの側面があると考えられる
- このため、具体的な検討に当たっては、①教科等の本質的な意義や系統性に照らした妥当性の観点と、②個別の資質・能力に照らした妥当性の両面を勘案しながら、最終的には、教師にとって分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わるものとしていく必要があるのではないか
- このような視点から、各WG等の議論や提示資料の作成に際しては、
 - 「高次の資質・能力」の全体を整理していく作業
 - 整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する作業
 - 整理した個別の資質・能力を踏まえて、「高次の資質・能力」を精査する作業を往還しながら、「高次の資質・能力」と個別の資質・能力のそれぞれを洗練させていくことが必要ではないか



- こうしたプロセスで資質・能力の在り方を検討しつつ、それらを表形式で構造化して示すことで、当該教科固有の学習過程の改善に繋げていく上では、学習内容のみならず、主たる教材である教科書の改善も重要。したがって、各WGでは、検定教科書制度の下で民間の教科書発行者が著作・編集することを前提としつつ、「高次の資質・能力」を掴みやすい教科書の在り方についても一定の検討を行う必要があるのではないか
- なお、総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会は、構造化の趣旨の適切な実現の観点から必要な調整を図るとともに、標準授業時数（小中学校）や標準単位数（高校）の検討の基礎とするため、こうした各教科等のプロセスの進捗を確認しながら、必要な調整を図るべきではないか

検討項目⑤ 中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選(3)

令和7年10月14日
総則・評価特別部会 資料1-1より

3. 今後の検討の進め方(案)

- 2. に示した基本的な考え方を踏まえ、今後の検討を以下の通り進めることについてどのように考えるか。

(1)各教科等の目標と「高次の資質・能力」のたたき台の暫定的な整理 (1月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、全教科等・科目について、目標及び見方・考え方、「高次の資質・能力」全体の一覧を修正の余地のあるたたき台として整理
※高等学校の専門教科・科目については科目数が非常に多いため柔軟に対応

(2)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整① (2月中を目途)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において、(1)で作成した一覧について議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(3)個別の資質・能力の検討と「高次の資質・能力」の精査 (3月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討
- ・整理した個別の資質・能力の在り方を踏まえて、「高次の資質・能力」の妥当性を精査し、必要に応じた修正を行う
- ・併せて、「高次の資質・能力」を掴みやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う

(4)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整② (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において(3)のプロセスで修正した「高次の資質・能力」全体の一覧や、当該教科等における表形式による構造化の在り方の議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(5)各教科等WG、総則・評価特別部会における最終調整 (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会での議論などを踏まえ、WGでのまとめに向けた検討を実施
- ・総則・評価特別部会においては、各教科等WGの検討状況を踏まえつつ、各教科等の標準授業時数や標準単位数の在り方を踏まえたまとめの検討

議題 3

高校の高次の資質・能力の在り方について

1. 教育課程企画特別部会における議論

- ・ 社会科等ワーキンググループにおいては、これまで目標や見方・考え方、高次の資質・能力について学校種・分野・科目別に議論を重ね、第4回会議においてとりまとめた案を、教育課程企画特別部会に提示したところ。
 - ・ 第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況の一覧が示され、論点整理で示された資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえた検討がなされたところ、以下の7つの観点については共通して引き続き精査を要すると整理されている。
- そのうち、「高次の資質・能力」の検討に当たって以下の観点を踏まえ、改めて検討いただきたい。【53から94ページ参照】

①資質・能力の深まりの可視化

②分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- ③「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査
- ④今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化
- ⑤用語の一層の整理・検討
- ⑥趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討
- ⑦構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

2. 検討の方向性

- ・ 高等学校の高次の資質・能力について、「1. 教育課程企画特別部会における議論」①と②を踏まえ、さらに内容のブラッシュアップを図る方向で、以下のとおり整理することとしてはどうか。

（1）地理歴史科

教育課程企画特別部会での②の観点を踏まえ、学習過程と重複する点などを中心に整理

（2）公民科

教育課程企画特別部会での②の観点を踏まえ、特に、公共などにおいて、概念的な枠組みに関する文言等について整理

（参考）資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）

（2月2日教育課程企画特別部会資料 関連部分抜粋）

1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような的確に示しているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、二層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

◎その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないか
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要があり、そのために、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

（１）高等学校地理歴史科 地理総合

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

(1) 地図や地理 情報シス テムと現代 世界	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○様々な目的や場面で役立つ地図や地理情報システム（GIS）を活用して、現代世界の地域構成の特色や国内や国家間の結び付きを理解する。	○位置や分布などに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図やGISの役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、以下の①から③について理解する。 ①時位や時差，②日本の位置と領域，③国内や国家間の結び付きなど。 (イ) 日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に，地図や地理情報システムの役割や有用性などを理解する。 (ウ) 現代世界の様々な地理情報について，地図や地理情報システムなどを用いて，その情報を収集し，読み取り，まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。	(ア) 位置や範囲などに着目して，現代世界の地域構成について，主題を設定し，世界的視野から見た日本の位置，国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し，表現する。 (イ) 位置や範囲，縮尺などに着目して地図や地理情報システムについて，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の多様な生活文化を対象として、世界の人々の生活文化が、自然及び社会的環境から影響を受けたり、環境に影響を与えたりしながら多様性が生じたり変容したりするかを理解するとともに、グローバル化の進展による自他の文化の尊重と国際理解の重要性を理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付き、変容などに関わる視点に着目して、世界各地における人々の衣食住を中心とする生活文化や、慣習や規範、宗教などの生活様式について、自然及び社会的環境の影響による多様性と変容を、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する (イ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解する。	(ア) 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 地球的課題と国際協力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界各地でみられる様々な地球的課題を対象として、現状や要因、解決の方向性や、課題相互の関連性を捉え、持続可能な社会の実現に向けた各国の取組や、国際協力の必要性を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる様々な地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界各地で見られる以下の①から④の地球的課題の、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大まかに捉えて理解する。 (イ) 世界各地で見られる以下の①から④の地球的課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解する。 ①地球環境問題、②資源・エネルギー問題、③人口・食料問題、④居住・都市問題	(ア) 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 持続可能な地域づくりと私たち

(1) 自然環境と防災	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地形図やハザードマップなどを活用して、自然環境の特色と自然災害の関係性、地域性を踏まえた災害の備えや対応について理解するとともに、防災の重要性について理解する。	○人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 地域の自然環境の特色と日本及び世界における、以下の①から④などの自然災害への、備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などを理解する。 ①地震災害、②津波災害、③風水害、④火山災害など (イ) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。	(ア) 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 生活圏の調査と地域の展望	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○科目のまとめとして、持続可能な地域づくりを目指した生活圏の調査を踏まえ、地理的な課題の解決に向けた様々な立場からの取組や探究する手法を理解する。	○持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に求められる取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。	(ア) 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

（2）高等学校地理歷史科 地理探究

高次の資質・能力イメージ（案） <地理探究①>

A 現代世界の系統地理的考察

(1) 自然環境	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して、地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①から③の事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①地形 ②気候 ③生態系など	(ア) 場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 資源、産業	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①から③の事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①資源・エネルギー ②農業 ③工業など	(ア) 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

A 現代世界の系統地理的考察

(3) 交通・通信, 観光	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①交通・通信網と物流 ②人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象	(ア) 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4) 人口, 都市・村落	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○人口、都市・村落などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、人口、都市・村落などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①人口 ②都市・村落など	(ア) 人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

A 現代世界の系統地理的考察

(5) 生活文化, 民族・宗教	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	○人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①生活文化 ②民族・宗教など	(ア) 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 現代世界の地誌的考察

(1) 現代世界の地域区分	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の諸地域は、目的による様々な指標で地域区分することが可能であることを理解し、地域には多様な側面やスケールがあるという地域の概念や現代世界の多様性を理解する。	○位置や分布、地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域について、目的による複数の指標に基づいて地域区分された分布図を比較し、区分された地域の共通点や差異、分布から、地域の捉え方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、以下の①から③などについて理解する。 ①世界を幾つかの地域に区分する方法、②地域の概念、③地域区分の意義など。 (イ) 世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付ける。	(ア) 世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 現代世界の諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○地域区分した世界の諸地域を対象として、世界の諸地域の地域的特色や地球的課題、地域間の結び付き、地域の構造や変容を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、以下の①②などについて理解する。 ①諸地域に見られる地域的特色、②地球的課題など (イ) 幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などを理解する。	(ア) 現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 現代世界におけるこれからの日本の国土像

(1) 持続可能な国土像の探究	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○科目のまとめとして、日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方の構想を通して、持続可能な国土像の在り方を探究する手法の重要性とその手法について理解する。	○持続可能な国土像に関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、これからの日本の国土像について、地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し、よりよい社会の実現を展望することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などを理解する。	(ア) 現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(3) 高等学校地理歴史科 歴史総合

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合①>

A 歴史の扉		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)歴史と私たち	(ア) (次の①及び②などを題材に、) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とのつながりを理解する。 <今後、学習対象の具体例を挙げることが必要か>	(ア) 諸資料を活用し、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。
(2)歴史の特質と資料	(ア) (次の①及び②などを題材に、) 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 <今後、学習対象の具体例を挙げることが必要か>	(ア) 日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料を活用し、複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合②>

B 近代化と私たち		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、産業社会と国民国家の形成により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)近代化への問い	(ア) 次の①から⑥などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付ける。 ①交通と貿易 ②産業と人口 ③権利意識と政治参加や国民の義務 ④学校教育 ⑤労働と家族 ⑥移民	(ア) ①から⑥などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
(2)結び付く世界と日本の開国	(ア) 次の①及び②などを題材に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ①18世紀のアジアや日本における生産と流通 ②アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易 (イ) 次の①及び②などを題材に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ①産業革命と交通・通信手段の革新 ②中国の開港と日本の開国	(ア) 諸資料を活用して、18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、18世紀のアジアの経済と社会に関する主題について、アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、工業化と世界市場の形成に関する主題について、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3)国民国家と明治維新	(ア) 次の①及び②などを題材に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ①18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向 ②日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定 (イ) 次の①及び②などを題材に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ①列強の進出と植民地の形成 ②日清・日露戦争	(ア) 諸資料を活用して、国民国家の形成の背景や影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、立憲体制と国民国家の形成に関する主題について、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に関する主題について、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4)近代化と現代的な諸課題	(ア) 内容のA及びBの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	(ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点（現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み）から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合③>

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	(ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①国際関係の緊密化 ②アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭 ③植民地の独立 ④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤生活様式の変化	(ア) ①から⑤などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
(2) 第一次世界大戦と大衆社会	(ア) 次の①から④などを題材に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ①第一次世界大戦の展開 ②日本やアジアの経済成長 ③ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ④ナショナリズムの動向と国際連盟の成立 (イ) 次の①から④などを題材に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ①大衆の政治参加と女性の地位向上 ②大正デモクラシーと政党政治 ③大量消費社会と大衆文化 ④教育の普及とマスメディアの発達	(ア) 諸資料を活用して、第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制に関する主題について、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、大衆社会の形成と社会運動の広がりに関する主題について、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) 経済危機と第二次世界大戦	(ア) 次の①から③などを題材に、国際協調との動揺を理解する。 ①世界恐慌 ②ファシズムの伸張 ③日本の対外政策 (イ) 次の①から④などを題材に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本国際社会への復帰を理解する。 ①第二次世界大戦の展開 ②国際連合と国際経済体制 ③冷戦の始まりとアジア諸国の動向 ④戦後改革と日本国憲法の制定 ⑤平和条約と日本の独立の回復	(ア) 諸資料を活用して、経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際協調体制の動揺に関する主題について、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰に関する主題について、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(ア) 内容のA及びCの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	(ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点（現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み）から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <歴史総合④>

D グローバル化と私たち		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことにより生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)グローバル化への問い	(ア) 次の①から⑦などに関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①冷戦と国際関係 ②人と資本の移動 ③高度情報通信 ④食料と人口 ⑤資源・エネルギーと地球環境 ⑥感染症 ⑦多様な人々の共存	(ア) ①から⑦などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
(2)冷戦と世界経済	(ア) 次の①から④などを題材に、国際政治の変容を理解する。 ①脱植民地化とアジア・アフリカ諸国 ②冷戦下の地域紛争 ③先進国の政治の動向 ④軍備拡張や核兵器の管理 (イ) 次の①から③などを題材に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ①西ヨーロッパや東南アジアの地域連携 ②計画経済とその波及 ③日本の高度経済成長	(ア) 諸資料を活用して、地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際政治の変容に関する主題について、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会に関する主題について、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3)世界秩序の変容と日本	(ア) 次の①から④などを題材に、市場経済の変容と課題を理解する。 ①石油危機 ②アジアの諸地域の経済発展 ③市場開放と経済の自由化 ④情報通信技術の発展 (イ) 次の①から④などを題材に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ①冷戦の終結 ②民主化の進展 ③地域統合の拡大と変容 ④地域紛争の拡散とそれへの対応	(ア) 諸資料を活用して、アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、市場経済の変容と課題に関する主題について、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、冷戦終結後の国際政治の変容と課題に関する主題について、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4)現代的な諸課題の形成と展望	(ア) これまでのこの科目の学習などを基に、歴史的経緯を踏まえた現代的な諸課題を理解する。	(ア) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望して、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(4) 高等学校地理歴史科 日本史探究

A 原始・古代の日本と東アジア

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、環境への適応と文化の形成、列島近隣地域との交流との関係など、各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、古代の政治や社会と文化の特色について、の仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)黎明期の日本列島と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 ①旧石器文化から縄文文化への変化 ②弥生文化の成立	(ア) 諸資料を活用し、自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2)歴史資料と原始・古代の展望	(ア) 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、歴史資料の特性を踏まえて歴史に関わる情報を収集し、読み取りまとめる技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
(3)古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(ア) 次の①及び②などを題材に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ①国家の形成と古墳文化 ②律令体制の成立過程と諸文化の形成 (イ) 次の①から③などを題材に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ①貴族政治の展開 ②平安期の文化 ③地方支配の変化や武士の出現	(ア) 諸資料を活用し、中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 中世の日本と世界

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、複層的な政治的権力や権威、多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど、各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、中世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)中世への転換と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、古代から中世への時代の転換を理解する。 ①貴族政治の変容と武士の政治進出 ②土地支配の変容	(ア) 諸資料を活用し、権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2)歴史資料と中世の展望	(ア) 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
(3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(ア) 武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。 ①武家政権の成立と展開 ②産業の発達 ③宗教や文化の展開 (イ) 地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。 ①武家政権の変容 ②日明貿易の展開と琉球王国の成立 ③村落や都市の自立 ④多様な文化の形成や融合	(ア) 諸資料を活用し、公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 近世の日本と世界

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、統一的な政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など、各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、近世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)近世への転換と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、中世から近世への時代の転換を理解する。 ①織豊政権の政治・経済政策 ②貿易や対外関係	(ア) 諸資料を活用し、村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2)歴史資料と近世の展望	(ア) 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
(3)近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(ア) 次の①から④などを題材に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。 ①法や制度による支配秩序の形成と身分制 ②貿易の統制と対外関係 ③技術の向上と開発の進展 ④学問・文化の発展 (イ) 次の①から⑤などを題材に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。 ①産業の発達 ②飢饉や一揆の発生 ③幕府政治の動揺と諸藩の動向 ④学問・思想の展開 ⑤庶民の生活と文化	(ア) 諸資料を活用し、織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

D 近現代の地域・日本と世界

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 ○現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	○多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ○事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通じた歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。 ○現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)近代への転換と歴史的環境	(ア) 次の①及び②などを題材に、近世から近代への時代の転換を理解する。 ① 対外政策の変容と開国 ② 幕藩体制の崩壊と新政権の成立	(ア) 諸資料を活用し、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
(2)歴史資料と近代の展望	(ア) 近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア) (1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
(3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造	(ア) 立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。 ① 明治維新 ② 自由民権運動 ③ 大日本帝国憲法の制定 ④ 条約改正 ⑤ 日清・日露戦争 ⑥ 第一次世界大戦 ⑦ 社会運動の動向 ⑧ 政党政治	(ア) 諸資料を活用し、アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 <(ア)と次頁(イ)は今後、統合整理が必要>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力イメージ（案） <日本史探究⑤>

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
前ページ よりの続き D (3)近 現代の地 域・日本 と世界の 画期と構 造	(イ) 次の①から⑤などを題材に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解する。 ①文明開化の風潮 ②産業革命の展開 ③交通の整備と産業構造の変容 ④学問の発展や教育制度の拡充 ⑤社会問題の発生 (ウ) 次の①から③などを題材に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 ①恐慌と国際関係 ②軍部の台頭と対外政策 ③戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開 (I) 次の①から⑥などを題材に、第二次世界大戦後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。 ①占領政策と諸改革 ②日本国憲法の成立 ③平和条約と独立の回復 ④戦後の経済復興とアジア諸国との関係 ⑤高度経済成長と社会・経済・情報の国際化 ⑥グローバル化する世界と現代の日本	(イ) 諸資料を活用し、欧米の思想・文化の影響、産業の発展の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 <(ア)と(イ)は今後、統合整理が必要> (ウ) 諸資料を活用し、国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (I) 諸資料を活用し、第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、(2)で表現した仮説を発展させて主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (オ) 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、(ア)から(I)までの学習で見いだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現する。
(4)現代 の日本の 課題の探 究	(ア) 次の①から③までのいずれかを取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、現代の日本の課題を理解する。 ①社会や集団と個人 ②世界の中の日本 ③伝統や文化の継承と創造	内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用し、歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(5) 高等学校地理歴史科 世界史探究

A 世界史へのまなざし

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○歴史をマクロに捉える見方とミクロに捉える見方があることを理解し、時間と空間のスケールを活用して歴史を考察する方法を理解する。	○時期や年代、空間的な広がり、展開や変化などの視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と世界史との関わりを考察、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 地球環境から見る人類の歴史	(ア) 次の①などを題材に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 ①人類の誕生と地球規模での拡散・移動 ＜今後、学習対象の具体例を挙げる必要があるか＞	(ア) 諸資料を活用して、諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、人類の歴史と地球環境との関わりに関する主題について、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。
(2) 日常生活から見る世界の歴史	(ア) 次の①から③などの身の回りの事象を題材に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。 ①衣食住 ②家族 ③教育、余暇 ＜今後、学習対象の具体度を挙げる必要があるか＞	(ア) 諸資料を活用して、諸事象の来歴や変化に着目して、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることに関する主題について、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

注：

現行においては、各内容項目の「諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、」という考察の方法に関する記載は全ての内容項目に共通して記載されている。一方、歴史総合や日本史探究と同様、「思考力、判断力、表現力等」の記載に、「諸資料を活用して」と追記した。追記したことを踏まえると、「諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き」は重複していると捉えられることから、一律削除して短くしている（次ページ以降は削除したものを表記）。内容の取扱いに記載することもある。

B 諸地域の歴史的特質の形成

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、諸地域の歴史的特質への問いに照らして、世界各地に共通性と多様性をもつ諸地域が形成されたことについて理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の歴史的特質への問い	(ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 生業 ② 身分・階級 ③ 王権 ④ 宗教 ⑤ 文化・思想	(ア) ①から⑤などに関する資料を活用して、文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
(2) 古代文明の歴史的特質	(ア) 次の①から③などを題材に、古代文明の歴史的特質を理解する。 ① オリエント文明 ② インダス文明 ③ 中華文明	(ア) 諸資料を活用して、古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、古代文明の歴史的特質に関する主題について、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) 諸地域の歴史的特質	(ア) 次の①及び②などを題材に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。 ① 秦・漢と遊牧国家 ② 唐と近隣諸国の動向 (イ) 次の①及び②などを題材に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。 ① 仏教の成立とヒンドゥー教 ② 南アジアと東南アジアの諸国家 (ウ) 次の①及び②などを題材に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。 ① 西アジアと地中海周辺の諸国家 ② キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成	(ア) 諸資料を活用して、東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する主題について、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する主題について、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (ウ) 諸資料を活用して、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関わる主題について、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 諸地域の交流・再編

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の交流・再編への問い	(ア) 次の①から④などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 交易の拡大 ② 都市の発達 ③ 国家体制の変化 ④ 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播	(ア) ①から④などに関する資料を活用して、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
(2) 結び付くユーラシアと諸地域	(ア) 次の①から③などを題材に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり理解する。 ① 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 ② ヨーロッパ封建社会とその展開 ③ 宋の社会とモンゴル帝国の拡大 (イ) 次の①から③などを題材に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解する。 ① アジア海域での交易の興隆 ② 明と日本・朝鮮の動向 ③ スペインとポルトガルの活動	(ア) 諸資料を活用して、諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(ア) 次の①及び②などを題材に、アジア諸地域の特徴を理解する。 ① 西アジアや南アジアの諸帝国 ② 清と日本・朝鮮などの動向 (イ) 次の①から③などを題材に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を理解する。 ① 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争 ② 大西洋三角貿易の展開 ③ 科学革命と啓蒙思想	(ア) 諸資料を活用して、アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、アジア諸地域の特徴に関する主題について、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大に関する主題について、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 諸地域の歴史的特質の形成

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、諸地域の歴史的特質への問いに照らして、世界各地に共通性と多様性をもつ諸地域が形成されたことについて理解する。	○諸地域を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の歴史的特質への問い	(ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 生業 ② 身分・階級 ③ 王権 ④ 宗教 ⑤ 文化・思想	(ア) ①から⑤などに関する資料を活用して、文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
(2) 古代文明の歴史的特質	(ア) 次の①から③などを題材に、古代文明の歴史的特質を理解する。 ① オリエント文明 ② インダス文明 ③ 中華文明	(ア) 諸資料を活用して、古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、古代文明の歴史的特質に関する主題について、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) 諸地域の歴史的特質	(ア) 次の①及び②などを題材に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。 ① 秦・漢と遊牧国家 ② 唐と近隣諸国の動向 (イ) 次の①及び②などを題材に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。 ① 仏教の成立とヒンドゥー教 ② 南アジアと東南アジアの諸国家 (ウ) 次の①及び②などを題材に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。 ① 西アジアと地中海周辺の諸国家 ② キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成	(ア) 諸資料を活用して、東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する主題について、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する主題について、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (ウ) 諸資料を活用して、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関わる主題について、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 諸地域の交流・再編

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。	○諸地域を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の交流・再編への問い	(ア) 次の①から④などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 交易の拡大 ② 都市の発達 ③ 国家体制の変化 ④ 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播	(ア) ①から④などに関する資料を活用して、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
(2) 結び付くユーラシアと諸地域	(ア) 次の①から③などを題材に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり理解する。 ① 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 ② ヨーロッパ封建社会とその展開 ③ 宋の社会とモンゴル帝国の拡大 (イ) 次の①から③などを題材に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解する。 ① アジア海域での交易の興隆 ② 明と日本・朝鮮の動向 ③ スペインとポルトガルの活動	(ア) 諸資料を活用して、諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(ア) 次の①及び②などを題材に、アジア諸地域の特徴を理解する。 ① 西アジアや南アジアの諸帝国 ② 清と日本・朝鮮などの動向 (イ) 次の①から③などを題材に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を理解する。 ① 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争 ② 大西洋三角貿易の展開 ③ 科学革命と啓蒙思想	(ア) 諸資料を活用して、アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、アジア諸地域の特徴に関する主題について、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大に関する主題について、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

D 諸地域の結合・変容

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、近代以降に世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 諸地域の結合・変容への問い	(ア) 次の①から⑥などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①人々の国際的な移動 ②自由貿易の広がり ③マスメディアの発達 ④国際規範の変容 ⑤科学・技術の発達 ⑥文化・思想の展開	(ア) ①から⑥などに関する資料を活用して、諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	(ア) 次の①から③などを題材に、国民国家と近代民主主義社会の形成を理解する。 ①産業革命と環大西洋革命 ②自由主義とナショナリズム ③南北戦争の展開 (イ) 次の①から③などを題材に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を理解する。 ①国際的な分業体制と労働力の移動 ②イギリスを中心とした自由貿易体制 ③アジア諸国の植民地化と諸改革	(ア) 諸資料を活用して、大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国民国家と近代民主主義社会の形成に関する主題について、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界市場の形成とアジア諸国の変容に関する主題について、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	(ア) 次の①及び②などを題材に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを理解する。 ①第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争 ②アジア諸国の変革 (イ) 次の①から④などを題材に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。 ①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成 ③アメリカ合衆国の台頭 ④アジア・アフリカの動向とナショナリズム	(ア) 諸資料を活用して、列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界分割の進展とナショナリズムの高まりに関する主題について、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	(ア) 次の①及び②などを題材に、国際関係の緊張と対立を理解する。 ①世界恐慌とファシズムの動向 ②ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺 (イ) 次の①及び②などを題材に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。 ①第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序 ②冷戦とアジア諸国の独立の始まり	(ア) 諸資料を活用して、世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国際関係の緊張と対立に関する主題について、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

E 地球世界の課題

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○資料等のから収集し読み取った情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。	○諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1)国際機構の形成と平和への模索	(ア) 次の①から④などを題材に、紛争解決の取組と課題を理解する。 ①集団安全保障と冷戦の展開 ②アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き ③平和共存と多極化の進展 ④冷戦の終結と地域紛争の頻発	(ア) 諸資料を活用して、国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、紛争解決の取組と課題に関する主題について、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)経済のグローバル化と格差の是正	(ア) 次の①から⑤などを題材に、格差是正の取組と課題を理解する。 ①先進国の経済成長と南北問題 ②アメリカ合衆国の覇権の動揺 ③資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換 ④アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題 ⑤経済のグローバル化	(ア) 諸資料を活用して、国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、格差是正の取組と課題に関する主題について、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3)科学技術の高度化と知識基盤社会	(ア) 次の①から④などを題材に、知識基盤社会の展開と課題を理解する。 ①原子力の利用や宇宙探査などの科学技術 ②医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理 ③人工知能と労働の在り方の変容 ④情報通信技術の発達と知識の普及	(ア) 諸資料を活用して、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、知識基盤社会の展開と課題に関する主題について、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(4)地球世界の課題の探究	(ア) 次の①から③までのいずれかあるいは関連させて取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地球世界の課題を理解する。 ①紛争解決や共生 ②経済格差の是正や経済発展 ③科学技術の発展や文化の変容	(ア) 内容のA、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用して、地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

（6）高等学校公民科 公共

A 公共の扉

(1)公共的な空間を作る私たち	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○人間がよりよく生きるためには、個人として尊重されるとともに、人間として成長し、自立した主体として社会に参画する必要があることについて理解する。	○個人の尊厳や人間と社会の多様性と共通性などの概念的な枠組みに着目し、自らの問題として、社会に参画する自立した主体とは何かということについて考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、 (ア) 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方 (イ) 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であること (ウ) 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くこと	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○主体的に社会に参画し、他者と協働する際に選択・判断を行う手掛かりとなる考え方について、人間としての在り方生き方に関連付けて理解する。	○現代の倫理的課題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで、課題の本質を的確に捉え、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて考察し、表現する。。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 (ア) 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方など (イ) 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、 (ア)に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であること (ウ) 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

A 公共の扉

(3)公共的な空間における基本的原理	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人を尊重し、協働の利益を確保することなどが、公共的な空間を作る目的であることの理解のもとで、それと関連付けて公共的な空間における基本的原理を理解する。	○幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、人間が協働する理由、協働関係を妨げる要因について考察した上で、公共的な空間における基本的原理が、協働のための条件や協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として、どのような役割を果たすかということについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 (ア) 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であること (イ) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わる仕組みの特徴及びそれらが現代の諸課題の解決にどのように役立つか ということの理解のもと で、それらの仕組みの下で活動するために必要な知識を理解する。	○現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用し て 、関係する者の利害を適切に考慮し た上で 、考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
一	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、 (ア) 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則（のっとり）、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくこと (イ) 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであること (ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、人口減少社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であること (I) 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、 ・(ア)から(ウ)までの事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

—	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、 事実に基いて考察した上で、その課題を解決する方法について、関係する者の利害を適切に考慮し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、協働して考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究して、 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

(7) 高等学校公民科 倫理

A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

(1)人間としての在り方生き方の自覚	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○人間としての在り方生き方に関わる概念や理論についての理解のもとで、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。	○古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、 (ア) 個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方 (イ) 幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観及び人生における宗教や芸術のもつ意義 (ウ) 善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観 (エ) 真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観 (オ) 古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、 ・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)国際社会に生きる日本人としての自覚	○日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいて理解のもとで、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。	○古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	日本人としての在り方生き方について思索する活動を通して、 (ア) 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する (イ) 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、 ・国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 現代の諸課題と倫理

(1)自然 や科学技術 に関わる 諸課題 と倫理	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	自然や科学技術との関わりにおいて、 社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、 ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。
(2)社会 と文化に 関わる諸 課題と倫 理	—	○様々な他者との協働、共生に向けて、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	様々な他者との協働、共生に向けて、 社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、 ・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

（ 8 ） 高等学校公民科 政治・経済

A 現代日本における政治・経済の諸課題

(1)現代日本の政治・経済	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○現代日本の政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 ○現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。 ○政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見だし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 (ア) 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治にかかわる現実社会の事柄や課題 (イ) 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みにかかわる現実社会の事柄や課題 (ウ) 現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 ・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

A 現代日本における政治・経済の諸課題

(2)現代日本における政治・経済の諸課題の探究	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見だし、 社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究して、 ・ 人口減少社会 における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 国際社会の諸課題

(1)現代の国際政治・経済	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○現代の国際政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 ○国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。 ○政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見だし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 (ア) 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献にかかわる現実社会の事柄や課題 (イ) 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割にかかわる現実社会の事柄や課題 (ウ) 現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能	国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 国際社会の諸課題

(2)国際社会の諸課題の探究	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見だし、 社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究して、 ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

參考資料

目標

下線：現行からの変更点

柱書			
よりよい社会の形成に向けて、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	・ <u>地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。</u> ・ <u>様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う。</u> ・ <u>社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。</u> ・ <u>考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。</u>	・ <u>社会的事象について、よりよい社会を考え見通しを立てたり、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</u>

※学年別目標の在り方について

- ・ 小学校の学年別目標については、総則・評価特別部会の議論において、表形式化に当たり、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとされたことを踏まえて、提示しないこととはどうか。

見方・考え方

- ・ 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

中学校	社会科	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	地理的分野	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>地理に関する課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	歴史的分野	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>歴史に見られる課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	公民的分野	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>現代社会に見られる課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ・ 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を養う。 ・ 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	・ <u>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、多面的・多角的に考察する力を養う。 ・ <u>地理的な課題の解決に向けて公正に</u>選択・判断する力を養う。 ・ 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ <u>日本や世界の地域に関わる諸事象について</u>、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しよう</u>とするものの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	・ 我が国の<u>歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて</u>理解する。 ・ 諸資料から<u>歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に</u>調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・ <u>歴史に関わる諸事象について</u>、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての<u>自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しよう</u>とするものの大切さについての自覚などを深め、<u>国際協調の精神を養う</u>。
	公民的分野	・ <u>個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に</u>理解を深める。 ・ 諸資料から<u>現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に</u>調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・ <u>現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わりよう</u>とする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、<u>各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うこと</u>の大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

- 【地理的分野】 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史的分野】 社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【公民的分野】 社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

高等学校

地理歴史科

よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

地理総合、地理探究

よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

歴史総合、日本史探究、世界史探究

よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、歴史に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地理歴史科	- 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 - 調査や諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 社会に見られる課題の解決に向けて構想する力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
地理総合	- 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 - 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した<u>地理に関する情報</u>について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、<u>地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 地理的な課題の解決に向けて構想する力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる課題</u>を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。
地理探究	- 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 - 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した<u>地理に関する情報</u>について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、<u>地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、<u>系統地理的、地誌的に</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 地理的な課題の解決に向けて構想する力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる課題</u>を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>探究</u>しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。
歴史総合	- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 - 諸資料から収集した<u>歴史に関する情報</u>について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	- 近現代の歴史の<u>変化</u>に関わる事象の意味や意義、特色などを、<u>時系列、推移、類似と差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>歴史に見られる課題を把握し</u>解決を視野に入れて構想する力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 近現代の歴史の<u>変化</u>に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の<u>歴史</u>に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
日本史探究	- 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、<u>地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて</u>理解する。 - 諸資料から収集した我が国の<u>歴史に関する情報</u>について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	- 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、<u>伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>歴史に見られる課題を把握し</u>解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>探究</u>しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
世界史探究	- 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、<u>地理的条件や日本の歴史と関連付けながら</u>理解する。 - 諸資料から収集した<u>世界の歴史に関する情報</u>について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	- 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、<u>時系列、推移、類似と差異、因果関係や現代世界とのつながりなどに着目して</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>歴史に見られる課題を把握し</u>解決を視野に入れて構想する力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>探究</u>しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

- 【地理総合、地理探究】社会的な事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史総合、日本史探究、世界史探究】社会的な事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

高等学校	公民科	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	公共	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>現代の諸課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	倫理	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、 <u>人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて</u> 、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>現代の諸課題</u> を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	政治・経済	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>現実社会に見られる複雑な諸課題</u> を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	公民科	- 現代の諸課題について、事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。 - 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	公共	<u>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して</u>、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。 - 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、<u>現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として</u>、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	倫理	- 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力を養う。 - 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、<u>現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</u>
	政治・経済	- 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、<u>現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察するとともに</u>、身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。 - 構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、<u>合意形成や社会参画に向かう力を養う。</u> - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- よりよい社会の実現のために<u>現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、<u>我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</u>

見方・考え方

- 社会的な事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ（案）＜教科科目・分野一覧＞

※第5回WG資料

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 （地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （地理総合、地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 （歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （歴史総合、日本史探究、世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会 （公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 （公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民 （倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民 （政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	

（見方・考え方）

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。